

# JSDF

日本社会開発基金

年次報告 2015年度

Public Disclosure Authorized



日本政府



世界銀行グループ  
開発金融総局



# JSDF

日本社会開発基金

年次報告 2015年度



日本政府



世界銀行グループ  
開発金融総局

# 成果の概要

日本社会開発基金 (JSDF) のプロジェクトは、2015年度も引き続き、極度の貧困を撲滅するため、先駆的かつ革新的なアイデアを試行し、通常のプロジェクトでは行き届かない分野に重点を置き、世界各地でコミュニティ・ベースのソリューションを促進し、分野横断的なアプローチに注力しました。JSDFは、開発プロジェクト、対話シリーズ、出版物を通じて、数百万人の最貧困層・最脆弱層に支援の手を差し伸べただけでなく、グラント受入国の非政府組織 (NGO)、市民社会組織 (CSO)、その他のコミュニティ・グループとの直接的なパートナーシップも促進しました。

## JSDFの受益者数

およそ **1,350万人**

(内40%は女性)が  
JSDFプロジェクトの  
直接的恩恵を享受

## 栄養不良対策

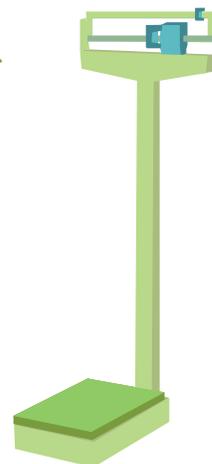
**3万8,369人の**  
5歳未満児、青年期女子、妊婦、  
授乳中の母親が

栄養に関する教育と基本的な  
栄養補給サービスを受講

**2,097人の**

乳幼児(0~24カ月)が  
成長観察と  
栄養不良対策セッションに  
毎月参加

プロジェクトが対象とする  
極度の栄養不良児の内、約 **59%**の  
体重が増加



## 生計支援

約 **50万人日**分の  
短期雇用を創出

およそ **3,600人の**  
身体障害者の女性や若者が  
健康を蝕む採掘活動から  
他の安全な生計活動に移行



## 気候変動と衛生



女性を含む **1,522人**の市民が  
水の保全や天然資源の保護、  
栄養に関する研修を受講

**1万8,000**世帯に  
整備された衛生設備への  
アクセスを提供

## 法的支援へのアクセス提供と 優れたガバナンスの促進

**1万2,386人**の貧困層(内40%が  
女性)が、法的支援サービスを提供する  
プロジェクトの恩恵を享受

**5,380人**が、法的権利と  
裁判外紛争解決に関する研修を受講

**1,512人**が地域の予算編成と  
執行について理解が深まったと報告

## 自作農への支援

**8万2,469人**の自作農に支援を提供

**8万504人**の自作農に、野菜栽培時の殺虫剤の  
安全な扱い方について助言

**5万2,185戸**  
の農家が

アグロフォレストリーと  
混合農業システムを導入



## 若者のための研修

約 **4,100人**の若者が  
職業、小規模な起業、  
財務についての研修を受講

約 **300人**の若者を  
対象に、若者主導の  
事業立ち上げを支援



## 包摂的教育

モンゴル農村部の遊牧コミュニティにおいて  
約 **5,700人**が包摂的教育から  
直接の恩恵を享受

マラウイの教師 **800人**が  
包摂的教育について研修を受講



**200人**の聴者教師が  
手話による  
聴覚障害者に  
対する教育方法に  
ついて研修を受講

**6歳未満の聴覚障害児**  
**255人**が手話を学習

## 知識プラットフォーム

JSDF対話シリーズ: バングラデシュ人  
出稼ぎ労働者保護プロジェクトの経験共有

女性運動と革新的な基金を取り上げた  
「裸足の技術者と草の根CEO」を発行:  
読み書きができない農村部の女性50万人が  
いかにして情報技術を駆使する  
草の根CEOに育ったかを紹介

# ジェヒャン・ソ

## 信託基金・パートナーシップ局長からのメッセージ



この度、日本社会開発基金 (JSDF) 年次報告 2015 年度版を皆様にお届けする事ができ、光栄に存じます。2015 年度も JSDF は引き続き、目覚ましい成果を上げる事ができました。他に類を見ない同プログラムは、貧困削減に向けた様々な課題に取り組む事で、社会から取り残された最も脆弱な人々に恩恵をもたらしています。JSDF は一貫して、世界銀行グループが掲げる極度の貧困の撲滅と繁栄の共有の促進という 2 大目標に貢献しています。

2015 年度に実施されたプロジェクトは 92 件で、その総額は 2 億 3,414 万ドルに上り、内 61% は 2015 年度末までに実行されています。また、2015 年度中に 30 件のプロジェクトが法的に終了し、総額 7,551 万ドルの内 90% が実行されました。2015 年度は新たに 10 件のプロジェクトが承認され、総額はおよそ 1,494 万ドルに上りました。

JSDF はプロジェクト開発目標を、ほぼ達成しています。2015 年度、JSDF プロジェクトの 91% は、プロジェクトの開発目標達成について「満足」(S) 又は「やや満足」(MS) の評価を受けましたが、この数字は 2014 年度を 1.1%、2013 年度を 3.4%、それぞれ上回っています。

2015 年度には、最貧困にある男性、女性、若者、少数民族など全ての人々の生活向上に向け、様々なプロジェクトが進められました。また、5 歳未満児、青年期女子、妊婦、授乳中の女性の栄養不良対策にも力を注ぎました。辺境地や放牧コミュニティに暮らす子供や、聴覚障害のある子供とその家族を対象に、初等教育と中等教育の就学率を高めるプロジェクトも実施しました。さらに、いくつかの JSDF プロジェクトは、衛生設備の改善と気候変動への適応を通じて生活の質を高める事に重点を置いています。また、法律扶助を提供し、現地政府などにサービスを求めるよう奨励する事で、貧困層のエンパワーメントを図るプロジェクトも少ないながら進められました。

JSDF プロジェクトは明確な成果を上げており、それを表す数字には目を見張るものがあります。プロジェクトから直接の恩恵を受けた人々はおよそ 1,354 万人に上りますが、その内、約 40% が女性でした。50 万人日分の短期雇用が創出され、約 4,100 人の若者が職業訓練と金融に関する

る研修を受け、3万8,369人の青年期女子、妊婦、授乳中の母親と5歳未満児が、栄養に関する教育と基本的な栄養サービスの恩恵を享受しました。

長年にわたり JSDF のプロジェクトは、世界銀行グループの融資プロジェクトに参考となる情報を提供してきましたが、2015年度も同様です。例えば、最貧困層への支援を目的とする世界銀行の基金、国際開発協会 (IDA) のベナンにおけるセクター横断型食糧・保健・栄養プロジェクトでは、ある JSDF プロジェクトのプロジェクト設計に役立つ知識が提供されました。このように JSDF のパイロット・プロジェクトの革新性とそのベスト・プラクティスは、NGO の参加と現地政府のキャパシティ・ビルディングの計画立案を中心に、大型プロジェクトの設計に役立っています。

JSDF プログラムの革新性を象徴する取組みのひとつが、ある特定の JSDF プロジェクトについて知識共有の場を提供する対話セミナー・シリーズです。2015年度の対話セミナー・シリーズでは、バングラデシュ人出稼ぎ労働者保護プロジェクトを取り上げました。出稼ぎに行く何千人ものバングラデシュ人は、手続きや雇用環境、報酬、法的手段についての情報がないために、出稼ぎ先で希望の仕事に就けないまま、家族と共に途方に暮れていました。そうした中、この革新的なプロジェクトは、貧しく、技術を持たない出稼ぎ希望者およそ86万4,000人に対して、正確でタイムリーな情報とサービスを提供するものです。また同プロジェクトは、コミュニティ主導の組織を強化して出稼ぎ希望者に情報を提供する事で、ブローカー（代理人）への依存を減らす事にも役立っています。これによって出稼ぎ希望者は自信をつけ、自分と家族のためにより良い決断を下す事ができるようになります。

世界銀行、JSDF 援助受入国、グラント受益者より、日本政府の温かいご支援に対して重ねて御礼を申し上げますと共に、極度の貧困の撲滅と繁栄の共有の促進という2つの目標の実現に向けて今後ともご協力をお願い申し上げる次第です。



# 目次

概要 ————— xii



## 第1章 はじめに ————— 1

- JSDFプロジェクトの対象分野 ————— 2
- JSDFプログラム資金の拠出・配分・実行 ————— 4
- JSDFグラントの承認 ————— 5



## 第2章 2015年度のプログラム実績 ————— 6

- 2015年度の援助受入国実施型グラント・ポートフォリオの概要 ————— 6
  - 実行 ————— 6
- プログラムの焦点 ————— 8
  - 通常プログラム ————— 8
  - シード基金グラント ————— 9
  - アフリカ開発会議V（TICAD V）行動計画の実施 ————— 9
    - 栄養不良対策 ————— 10
    - 元戦闘員の武装解除、動員解除、社会復帰の支援 ————— 10
    - JSDFとグローバル・ディベロップメント・ネットワーク（GDN）の協力 ————— 11
    - モロッコでのGDN会議 ————— 11



### **第3章** **2015年度のポートフォリオ実績** ————— **12**

ポートフォリオの評価	12
主なプロジェクト成果	13
生活の質の向上	14
栄養不良対策	24
教育へのアクセス	30
農業生産性の向上	37
司法サービスと現地のガバナンス	45
気候変動・適応・衛生	50
気候変動と適応	51
衛生	52

### **第4章** **知識管理とその普及** ————— **53**

JSDF対話シリーズ	53
------------	----

### **第5章** **プログラムの運営** ————— **56**

プログラムのモニタリング	56
ベトナムの現地視察：聴覚障害児教育・家族支援アウトリーチ・プロジェクト	57
ベナンの現地視察：コミュニティの栄養不良対策プロジェクト	57
日本の認知度	59

### **第6章** **未来へ向けて** ————— **61**

ジブチ戦略ノートの実施	62
-------------	----

## 囲み

囲み1.1：JSDFプロジェクトの特徴	1
囲み2.1：アフリカにおける栄養不良対策の拡大	10
囲み3.1：2015年度に実施されたJSDFプロジェクトの抜粋とその開発目標	13
囲み3.2：プロジェクトの成果：チュニジアのプロジェクト受益者180人のサンプル調査	19
囲み3.3：聴覚障害児教育・家族支援プロジェクト：包摂的教育のための、家庭中心で学習者にやさしいアプローチ	34
囲み3.4：遊牧コミュニティの教育ニーズ達成	36
囲み3.5：中央アメリカの記録的干ばつ：4カ国で40日間雨が降らず、200万人が飢餓に直面	40

## 図

図2.1：地域・グラント・ステータス別の実行実績	7
--------------------------	---

## 表

表1.1：設立以降のJSDFの概観	4
表1.2：JSDFグラントの種類別承認額と件数 2011～15年度	5
表2.1：JSDF受領者実施グラントの種類・ステータス別割合	6
表2.2：2015年度のポートフォリオ：実施中のグラントと終了したグラントの地域別累積実行実績	7
表2.3：2015年度に新規に承認された通常プログラム向けプロポーザル	8
表2.4：2015年度に承認されたシード基金グラント	9
表3.1：プロジェクト開発目標の評価	12
表3.2：プロジェクトの成果：ジブチ：危機への対応—雇用と人材のセーフティネット	16
表3.3：プロジェクトの成果：ラオス人民民主共和国：少数民族コミュニティの生活の質と福祉の向上に向けた生計手段確保の機会	16
表3.4：プロジェクトの成果：ベリーズ：天然資源を活用した持続可能な生計手段の強化	17
表3.5：プロジェクトの成果：アルメニア：脆弱層と障害者の生活の質向上と発言力の拡大	19
表3.6：プロジェクトの成果：フィリピン：貧困脱出の手段としてのコミュニティ企業開発	20
表3.7：プロジェクトの成果：コミュニティ・プロジェクトの仕事と現地住民の参加	21
表3.8：プロジェクトの成果：モンゴル：ウランバートル都市部の貧困層向けコミュニティ・インフラ	21
表3.9：プロジェクトの成果：タイ：都市部の貧困層に対するコミュニティ主導の生活の質向上	22

表3.10：コモロ：社会保障プログラムを通じた食糧確保と失業対策の緊急支援	23
表3.11：プロジェクトの成果：ウガンダ：自作農世帯の栄養強化に向けた革新的アプローチ	25
表3.12：プロジェクトの成果：ベナン：コミュニティの栄養不良対策	26
表3.13：プロジェクトの成果：タンザニア：農村部の食糧強化	27
表3.14：プロジェクトの成果：イエメン：対象を絞った緊急栄養支援	28
表3.15：プロジェクトの成果：スリランカ：北部地域の現地レベルでの栄養支援	29
表3.16：プロジェクトの成果：ホンジュラス：コミュニティ運営の新型の学校の試験的運営	31
表3.17：プロジェクトの成果：聴覚障害児教育・家族支援	33
表3.18：プロジェクトの成果：モンゴル：農村部の最脆弱層の子供たちへの初等教育の改善	35
表3.19：プロジェクトの成果：ブルキナファソ：家畜用飼料の緊急アクセス	38
表3.20：プロジェクトの成果：乾燥地帯での食糧不足と気候変動への対応のための マヤ先住民族と小作農の強靱性強化	39
表3.21：プロジェクトの成果：ホンジュラス：先住民族とアフリカ系小規模農家の 持続可能なカカオ豆生産	41
表3.22：プロジェクトの成果：エジプト：農家参加型の灌漑施設近代化	42
表3.23：プロジェクトの成果：ガンビア：緊急農業生産支援	43
表3.24：プロジェクトの成果：ニカラグア：価格リスクに対する小規模農家の脆弱性軽減	44
表3.25：プロジェクトの成果：ペルー：貧困層に対する総合法律戦略	46
表3.26：プロジェクトの成果：ナイジェリア：貧困層の司法アクセス	47
表3.27：プロジェクトの成果：キルギス共和国：効果的な自治体カバナンスに向けた 需要サイドのキャパシティ・ビルディング	47
表3.28：プロジェクトの成果：イエメン：農業生物多様性と適応	51
表3.29：プロジェクトの成果：モザンビーク：首都マプトの周辺部の衛生状態改善	52

# 略語

<b>AFR</b>	Africa Region (of the World Bank) (世界銀行の定義する)アフリカ地域	<b>EoJ</b>	Embassy of Japan 日本大使館
<b>AVD</b>	Association of Village Development 村落開発協会	<b>EPSF</b>	Emergency Peace Support Project 緊急平和維持プロジェクト
<b>AGRO-ENERGIA</b>	Agriculture and Energy Risk Management 農業・エネルギー・リスク管理	<b>ESMF</b>	Environment and Social Management Framework 環境・社会管理枠組み
<b>AHP</b>	Adolescent Health Promoter 青年期の保健推進者	<b>Feddan</b>	Unit of area—term used in Egypt エジプトで使用されている面積の単位
<b>ASM</b>	Artisanal Small-Scale Mining 小規模な採掘活動	<b>FHIA</b>	Fundacion Hondurena De Investigacion Agricola ホンジュラス農業調査基金
<b>CARTA</b>	Citizen Action for Results Transparency and Accountability 結果、透明性、説明責任を求める市民運動	<b>FY</b>	Fiscal Year 会計年度(7月1日～6月30日)
<b>CDD</b>	Community-Driven Development コミュニティ主導型開発	<b>GEF</b>	Global Environment Facility 地球環境ファシリティ
<b>CEO</b>	Chief Executive Officer 最高経営責任者	<b>GDN</b>	Global Development Network グローバル・ディベロップメント・ネットワーク
<b>CHP</b>	Community Health Promoters コミュニティ保健推進者	<b>GoJ</b>	Government of Japan 日本政府
<b>CMU</b>	Country Management Unit カントリー・マネジメント・ユニット	<b>Ha</b>	Hectare ヘクタール
<b>CSO</b>	Civil Society Organization 市民社会組織	<b>HS</b>	Highly Satisfactory 大いに満足
<b>DFI</b>	Development Finance 開発金融	<b>HUS</b>	Highly Unsatisfactory 大いに不満足
<b>DO</b>	Development Objective 開発目標	<b>IDA</b>	International Development Association 国際開発協会
<b>DPHE</b>	Department of Public Health Engineering 公衆衛生工学局	<b>ISR</b>	Implementation Status Report 実施状況報告書
<b>EAP</b>	East Asia Pacific Region (of the World Bank) (世界銀行の定義する)東アジア・大洋州地域	<b>JICA</b>	Japan International Cooperation Agency 国際協力機構
<b>ECA</b>	Europe and Central Asia Region (of the World Bank) (世界銀行の定義する)ヨーロッパ・中央アジ ア地域	<b>JSDF</b>	Japan Social Development Fund 日本社会開発基金

<b>LCR</b>	Latin America and Caribbean Region (of the World Bank) (世界銀行の定義する)ラテンアメリカ・カリブ海地域	<b>RE</b>	Recipient Executed 援助受入国による実施
<b>LGSP</b>	Local Government Support Project 地方政府支援プロジェクト	<b>S</b>	Satisfactory 満足
<b>MFHNP</b>	Multisectoral Food health and Nutrition Project マルチセクター食糧・保健・栄養プロジェクト	<b>SAR</b>	South Asia Region (of the World Bank) (世界銀行の定義する)南アジア地域
<b>MIDP</b>	Most Innovative Development Project プロジェクト部門国際開発賞	<b>SEWA</b>	Self-Employed Women's Association 自営女性労働者協会
<b>MNA</b>	Middle East and North Africa Region (of the World Bank) (世界銀行の定義する)中東・北アフリカ地域	<b>SHG</b>	Self Help Group 自助グループ
<b>MS</b>	Moderately Satisfactory やや満足	<b>SLWCS</b>	Sri Lanka Wildlife Conservation Society スリランカ野生動物保護協会
<b>M&amp;E</b>	Monitoring and Evaluation モニタリング・評価	<b>TICAD</b>	Tokyo International Conference for African Development アフリカ開発会議
<b>MUS</b>	Moderately Unsatisfactory やや不満	<b>TTL</b>	Task Team Leader タスクチーム・リーダー
<b>NGO</b>	Non-Government Organization 非政府組織	<b>UNA</b>	Universidad Nacional Agrícola 国立農科大学
<b>ORD</b>	Award for Outstanding Research on Development リサーチ部門日本国際開発賞	<b>UP</b>	Unit of local government in Bangladesh バングラデシュの地方政府の部門
<b>PCN</b>	Project Concept Note プロジェクト・コンセプトノート	<b>US</b>	Unsatisfactory 不満
<b>PHRD</b>	Policy and Human Resources Development 日本開発政策・人材育成基金	<b>VDC</b>	Village Development Committee 村落開発委員会
<b>PPP</b>	Public Private Partnership 官民パートナーシップ	<b>VNC</b>	Village Nutrition Center 村落栄養センター
<b>PROHECO</b>	Honduran Program for Community-Based Schools ホンジュラスの地方自治体主導の教育プログラム	<b>WBG</b>	World Bank Group 世界銀行グループ
		<b>WUC</b>	Water User Committee 水利用者委員会

# 概要

**本** 報告書は、日本社会開発基金（JSDF）が 2015 年度に達成した数々の成果をまとめたものです。JSDF プロジェクトは引き続き、世界銀行グループ（WBG）加盟国の中でグラントを受領する国の最貧困層・脆弱層を対象に支援を提供しています。貧困には様々に異なる側面があり、多様な分野に焦点を当てた活動が必要である事は、2015 年度のプロジェクト内訳が示す通りです。JSDF グラントは、生活の質向上の機会を高め、教育、保健、清潔な水と衛生設備、司法サービスをはじめとする社会的、経済的サービスに対する最貧困層・脆弱層のアクセス改善を図るため、様々な活動に資金を提供しました。

JSDF の設立以来、日本政府はおよそ 6 億 9,446 万ドルを拠出し、その内の 68% が 2015 年度の時点で実行済みです。2015 年度の JSDF ポートフォリオには、援助受入国が実施するグラントが 92 件含まれており、その総額は 2 億 3,414 万ドルに上りました。2015 年度までの累積実行額は、現在進行中のグラントと同年度に終了したグラントの 61% に達しました。終了した 11 件のグラントは、配分された金額を 100% 実行済みです。

2015 年度に承認されたグラントは 10 件（1,494 万ドル）で、その内 5 件（1,469 万ドル）は通常プログラム、残る 5 件（25 万ドル）はシード基金グラントとして承認されました。2015 年度、貧困層向け法的支援サービスを試行するためのシード基金グラントが承認され、ジブチ総合支援パッケージの実施が始まりました。2015 年度はさらに、第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）の行動計画が採択され、栄養不良対策の枠で、モザンビーク、ブルンジ、セネガル向けの 3 件のシード基金グラントが承認されました。TICAD V 行動計画の武装解除枠も 2015 年度に始まり、まずは 3 件のシード基金グラントのコンサルテーションと、通常プログラムでの 3 件のプロジェクト審査が進められています。

2015 年度、JSDF プロジェクトは意図された開発目標の達成に向けて、満足の行く成果を上げました。全体の約 91% のプロジェクトが「満足」又は「やや満足」の評価を受けました。これは、2014 年度を 1.1%、2013 年度を 3.4% 上回る水準です。特に、アフリカの JSDF プロジェクト 1 件が「大いに満足」の評価を受けました。

2015年度は、生活の質向上の機会拡大、所得創出と栄養改善のための農耕法の改良、そして農業の生産性向上がプロジェクトの重点対象でした。また、より良い保健・栄養サービスへのアクセス拡大、包摂的な教育、衛生設備の改善も図られました。気候変動への適応、女性起業家のエンパワーメント、法的サービスへのアクセス拡大、優れたガバナンスの促進を目指すプロジェクトも行われました。最脆弱層を対象とし、母子家庭、栄養不良に苦しむ子供、青年期女子、妊婦、授乳中の母親、若者、小規模な採掘コミュニティ、先住民族コミュニティ、障害者、及び紛争や世界的な景気後退、気候変動の影響を受けているコミュニティなどがプロジェクトの対象でした。

生活の質向上の機会を増やすプロジェクトでは、ジブチの対象世帯の40%が極度の貧困を脱け出し、ジブチとコモロでは約50万人日分の雇用が創出され、女性が受益者の40%を占めました。これに伴い、ベリーズ、コモロ、ラオス人民人種共和国、シエラレオネ、タイなどの国々で、500のコミュニティを対象にサブプロジェクトが実施されました。チュニジア、アルメニア、フィリピン、タイ、シエラレオネの8,000人以上の若者が、職業訓練、金融知識と生活の質向上の機会を高める研修を受け、モンゴルでは、JSDFプロジェクトにより、約1万6,900人の都市部の貧しい住民が、コミュニティのサブプロジェクトでの雇用を通じて、1日当たり8ドルの追加収入を確保し、シエラレオネでは、1,205人の若者、女性、障害者が、有害な採掘活動から農業に移行できるよう支援しています。ラオス人民民主共和国では、プロジェクトが支援する自助グループの約73%が、生活の質向上の機会が増えたと報告しており、プロジェクト対象世帯の約60%が栄養面から生活の質向上を図る活動を取り入れました。

2015年度のプロジェクトの多くは、自作農の家族の栄養不良対策です。特に、微量栄養素の不足を補い、貧しい農村部の5歳未満児と幼児の慢性的な栄養不良を減らすと共に、危機の影響を受けている少数民族や脆弱層の「子供の早期ケアと教育(ECD)」に対応する事が重点課題でした。JSDFの栄養不良対策プロジェクトの恩恵を受けた人は、合計で30万人以上に上ります。ウガンダ、ベナン、ジブチ、イエメン、スリランカでは、3万8,369人の5歳未満児、青年期女子、妊婦と授乳中の母親が、栄養教育と基礎的な栄養補給サービスを受けました。ジブチでは、JSDFプロジェクトによりプロジェクト参加者の食事の多様性が28%ポイント上昇し、栄養に関する生活習慣が98%ポイント改善しました。ベナンでのプロジェクトは、世界銀行グループの資金によるマルチセクター食糧・保健・栄養プロジェクトを設計する際のたたき台になっています。トーゴ北部では、社会的セーフティネットへのアクセス改善を図るJSDFプロジェクトの下、国内の最脆弱層9,000人以上が、子供の出生証明書の取得、研修と成長観察セッションへの参加、学齢期に達した子供の入学など、社会参加に向けた一定の重要条件に同意する事を条件に、現金給付を受けました。スリランカ北部では、JSDFプロジェクトが乳幼児(0~23カ月)と妊婦に広く見られる貧血症状の軽減に寄与しています。

JSDFの教育プロジェクトは、農村部の子供達を対象に初等・中等教育への準備を整え、聴覚障害をもつ子供の社会への参画を支援し、最脆弱層の子供達の学業成績向上に重点的に取り組みました。ホンジュラスでは、JSDFプロジェクトが地方自治体主導の教育プログラム(PROHECO)の対象範囲を中学校レベルまで拡大し、4つの試験的学習施設で100%の進学率を達成し、マラウィでは、2つの地区で教師800人に包摂的教育についての研修が提供され、直接支援を受けた学校は15校に上ります。ベトナムでは、JSDFプロジェクトが225人の聴覚障害児のコミュニケーションを支援し、普通学級への就学準備を整え、モンゴルでは、小学校向けの補償教育のパイロット・プログラムが成果を上げた事で、導入が決定され、30のプロジェクト参加村落で開始されました。さらに、遊牧民家庭の5~6

歳児を対象にした家庭での就学準備プログラム、遊牧民の両親と離れて暮らす子供向けの課外活動プログラムも成功を収めています。これらのプログラムの対象は、当初のプロジェクト拠点以外の子供達にも広がっています。

JSDF グラントは、農村部にある小規模農業コミュニティの農業生産性を高めるため、様々な活動に資金を提供しています。これらの活動は、小規模な酪農家の家畜用飼料と保健サービスへのアクセス向上、対象となる自作農と遊牧民の生産力回復に力を注いだ他、干ばつに見舞われやすい地域にて、乾期対策となる適応型の農法を、貧しい農家に紹介する事にも力を注ぎました。

他にも農業関連としては、森に暮らす先住民族コミュニティの生活の質向上や、環境に配慮したシステムにより、乾燥地帯の農民や先住民族の農業生産性向上を通じた農業リスク管理の改善を図るプロジェクトに加え、市場や現地の経済発展支援に連動したコミュニティ主導の起業を図る取り組みも実施されました。

これらの農業プロジェクトは、大きな成果を上げています。5万人の農婦を含む、推定8万2,469人の自作農が、JSDF プロジェクトから直接の恩恵を享受し、1万8,896ヘクタールに認可された種子が蒔かれました。ガンビアのプロジェクトに限っても、参加した5万914人の農婦が、乾期の野菜の生産量が増加したと報告しています。ブルキナファソのプロジェクトでは、家畜用飼料の生産が3,000トン増加し、家畜の生産性下落のリスクが高かった牧草地と農牧地に暮らす小規模な酪農家に20万回分のワクチンと獣医のための製品が配布されました。

他にも、望ましい成果として、5万2,185戸の農家を対象に農林業と混合農業が実施されました。グアテマラでは、乾燥地帯の90の農場に暮らす約1,560人の貧しい小作農と先住民族の農民が、こうしたシステムを導入し、農業生産のリスク管理を強化するために、701の小型貯水池が作られ、71戸の農場に雨水を使った点滴灌漑が設置されました。同様に、ホンジュラスのプロジェクトも、1,181戸のカカオ豆有機栽培農場への森林農法の導入につながっています。エジプトのプロジェクトでは、2つの行政区域における22のファーマーズ・フィールド・スクール(FFS)が設立されました。FFSでは、男女を問わず、農民に対して近代的な灌漑や農法について助言し、知識を移転できるよう、男女の農業改良指導員がFFSの方法論を学びました。

いくつかのJSDFプロジェクトは、貧困層と社会から取り残されたコミュニティの法律扶助サービスへのアクセス確保にも貢献しています。これらのプロジェクトは現地の開発問題に関する参加型意思決定プロセスの普及や、これらのコミュニティに対する地方政府機関の説明責任の向上にもつながりました。同プロジェクトにより、20の法律扶助相談所が設立され、5,380人が法律に基づく権利と裁判外紛争解決に関する研修を受けました。ナイジェリアでは、約830人の貧しく脆弱な人々が、同プロジェクトの下で司法サービスを活用しました。キルギス共和国では、プロジェクト活動への参加を経て、地方政府の約97%が公共预算の編成と計画を話し合うミーティングを公開しました。プロジェクト受益者の約88%が地方の予算編成と実行について知識が深まったと報告しています。

2015年度のポートフォリオには、世界銀行グループが資金を提供した、バングラデシュとネパールの貧困層向けプロジェクトの開発インパクト、持続可能性、オーナーシップ強化を目指す革新的なプロジェクトも含まれています。同プロジェクトは市民社会による参加を促進し、受益者の発言を促しました。世界銀行グループの資金による地元での10件のプロジェクトの実施に当たり、ガバナンスの強化を要求できるよう、現地コミュニティの知識を増やし、機能を強化する事に役立ちました。

JSDFの気候変動と衛生プロジェクトでは、1,522人の男女に対する水の保全や天然資源の保護に関する研修のほか、現地の知識と農業多様性資源を活用したイエメンのコミュニティ・パイロット・プロジェクト50件の立ち上げなどの成果が上がりました。他にも、モザンビークで、JSDFプロジェクトにより首都マプトで約1万8,000人の住民が、より整備された衛生設備にアクセスできるようになりました。

2015年度の対話シリーズは、「バングラデシュ人出稼ぎ労働者保護」プロジェクトを取り上げました。この革新的なプロジェクトは、貧しく、技術を持たない出稼ぎ希望者およそ86万4,000人に対して、正確でタイムリーな情報とサービスを提供するものです。また同プロジェクトは、コミュニティ主導の組織を強化して出稼ぎ希望者に情報を提供する事で、ブローカー（代理人）への依存を減らす事にも役立っています。これによって出稼ぎ希望者は自信をつけ、自分と家族のためにより良い決断を下す事ができるようになります。

JSDFチームは引き続き、JSDFプログラムに対する日本の貢献の認知度向上に力を注いでいます。JSDFプロジェクトのタスクチーム・リーダーに、「コミュニケーション・ツールキット」が配布され、日本の認知度向上に役立てられています。プロジェクト関連の印刷物やビデオ資料には、引き続きJSDFのロゴを掲示しています。援助受入国にある日本大使館の職員は、結果、透明性、説明責任を求める市民アクション（CARTA）プロジェクトのウガンダでの全国規模のワークショップ立ち上げをはじめ、インドの自営女性労働者協会（SEWA）が詳細なJSDFプロジェクト成果を綴った「裸足の技術者と草の根CEO」の発表など、プロジェクト関連のイベントに招待されています。





# 第1章 はじめに

**貧**困には様々な側面があります。その国の貧困レベルを、標準的な経済指標である国民一人当たり所得だけで把握することはできません。貧しい女性や母子家庭、障害者など、社会から取り残された最貧困層・最脆弱層のために、基本的な社会・経済サービスへのアクセスを確保する必要があります。しかし、所得拡大を図るプログラムが必ずしもアクセス改善につながるとは限りません。JSDF が貧困削減のために包括的なアプローチを用いているのは、こうした複雑な要因があるからです。JSDF の戦略的枠組みは、脆弱層のために、貧困撲滅を図ると共に、安価な食糧、保健医療、教育、住宅、安全な飲み水、衛生設備へのアクセスを改善する方法を見極めるべく設計されています。

日本社会開発基金 (JSDF) は、日本政府と世界銀行グループ (WBG) のパートナーシップ・プログラムとして、1990 年代後半に起きたアジア金融危機を受けて設立されたもので、小規模なプロジェクト・grant とキャパシティ・ビルディング・grant を通じて経済・社会面の革新的なパイロット・プログラムに資金を提供します。現在、JSDF プロジェクトは、当初の目的から離れ、社会から疎外された人々や各種の危機に対する安全保障の問題に取り組んでいます。プロジェクト・grant は、貧困層の生活の質やサービスの向上、設備の改善に直接役立つ活動に資金を提供しており、そのために、社会的セーフティネットの強化や、規模を拡大した上で再現可能な先駆的アプローチの試行を進めています。キャパシティ・

最貧困層に働きかける、  
他に類のない  
プログラム

## 囲み 1.1 JSDF プロジェクトの特徴

- 貧困層、脆弱層を直接支援
- 生活の質向上のニーズに対応
- コミュニティ主導型開発を支援
- 暮らしを左右する意思決定に自ら効果的に参加するため、現地コミュニティと貧困層の組織にキャパシティ・ビルディングを実施
- 対象グループへのより効果的なサービス提供を図るため、地方政府や現地の NGO / CSO の機能を強化
- 他のプログラムのサービスが行き届かないグループを対象とし、革新的なアプローチを採用。実施組織として NGO / CSO、コミュニティ組織、地方政府とパートナーシップを構築
- 受益者が受け入れやすい grant 活動を目指し、参加型のデザイン・プロセスと協議を実施
- 受益者のオーナーシップとプロジェクトの持続可能性を確保するため、参加型のモニタリング・評価を実施

ビルディング・グラントは、貧困層や社会から取り残された人々を支援する現地コミュニティ、非政府組織（NGO）、市民社会組織（CSO）の機能強化に充てられます。

## JSDF プログラムの対象分野

JSDF プログラムの範囲は、時間の経過と共に拡大し、新たなニーズへの対応を図っています。例えば、貧困層や社会から取り残された人々が、極度の貧困や世界規模の金融危機、食糧不足、自然災害、紛争、感染症などに対応できるようにする事です。JSDF プログラムの詳細は次のとおりです。

**通常プログラム：**元来の JSDF プログラムで、JSDF のメインのプログラムとして、以下の 2 種類のプロジェクトに資金を提供します。

- **プロジェクト・グラント：**一般的プログラムのサービスが十分行き届かない貧困層や脆弱層を対象とする革新的プログラムに資金を提供
- **キャパシティ・ビルディング・グラント：**現地コミュニティ、NGO、地方政府、CSO に資金を提供し、これらのグループが実地学習を通じて開発に深く関与するため、組織としての機能を強化

通常プログラムには、「ジブチ総合支援パッケージ」と「アフリカ開発会議（TICAD）V 行動計画」の新規グラント 2 件が含まれています（第 2 章を参照）。

**特別プログラム：**同プログラムでは、大規模な自然災害や紛争後のニーズなど緊急時に対応するプロジェクトとキャパシティ・ビルディング・グラントに資金を提供します。現在実施中のアフガニスタン特別プログラムは、コミュニティによる実践とコミュニティ・ガバナンスを促進する社会サービスや生産的インフラ・プロジェクトを通じてアフガニスタンの復興を支援し、コミュニティ・レベルの政府の基盤を築く事を目指しています。同プログラムは 2012 年に段階的に終了しました。「アフガニスタン：基礎的保健医療パッケージに対する基本的支援プロジェクト」は、2015 年度に完了し、さらに 2 つのプロジェクトが準備段階にあります。

**JSDF 緊急対応枠：**緊急対応枠は 2010 年に設置されましたが、その後、段階的に終了しています。その目的は、プロジェクト・グラントとキャパシティ・ビルディング・グラントを用いて、最貧困層と最脆弱層が世界的な食糧危機、燃料危機、金融危機に対応できるよう支援する事にありました。同対応枠での JSDF プロジェクトは、世界銀行グループの 2 つのプログラム、すなわち世界食糧危機対応プログラム（GFRP）と緊急社会対策プログラム（RSR）を補完しています。2015 年度には、この枠で 20 のプロジェクトが進行中で、総額は 5,448 万ドルに達しました。その内 9 件のプロジェクトも、2015 年度に終了しています。

**シード基金グラント:** JSDF は、コミュニティ主導の開発を理念としており、プロジェクト・プロポーザルの設計には、効果的な参加型アプローチが義務付けられています。将来的に受益者となる可能性のあるコミュニティなどステークホルダーと幅広く協議する事は、プロジェクトに対するオーナーシップを高める上で不可欠です。JSDF は、世界銀行グループのタスクチーム・リーダー (TTL) が参加型プロセスによる JSDF プロジェクトを策定できるよう、5 万ドルを上限とするグラントを提供しています。JSDF グラント・プロポーザルの成果枠組みに含める基本的なデータ収集には、最大 2 万 5,000 ドルの追加配分も認められています。

**JSDF とグローバル・ディベロップメント・ネットワーク (GDN) との協力:** 近年、日本政府は、日本開発政策・人材育成 (PHRD) 基金を用いて、年に一度、国際開発賞を主催しています。これは、途上国の研究能力を高める事を目的に、リサーチ部門日本国際開発賞 (ORD) などの賞を授与するものです。2010 年度、新たなインセンティブとして、ORD の最優秀賞受賞者に対し、GDN を通じて最大 20 万ドルの JSDF グラントが授与される事になりました。詳細は第 2 章をご覧ください。

JSDF の経験から学ぶ事は、革新的なプロジェクトを再現・拡大する上で不可欠です。そして、失敗を繰り返さないために、何がうまく行かなかったかを検証する事も重要です。そのため、JSDF は、プロジェクトの設計と実践から得られた経験と教訓についての知識を共有するため、資金を提供しています。この革新的な知識共有とコミュニケーション戦略には、JSDF 対話シリーズと、成功したプロジェクトの実践経験をまとめた報告書の作成が含まれます。2015 年度の活動は第 4 章で説明します。

## JSDF プログラム資金の拠出・配分・実行

JSDF プログラム設立から 15 年間に、日本は約 7 億ドルを拠出し、700 件以上のグラントに資金を提供しています。そして貧困層と脆弱層のために、生活の質向上の機会を増やし、教育、保健、清潔な水と衛生設備、法律扶助、その他の社会・経済サービスへのアクセス改善を図る幅広い活動を支援してきました(表 1.1 参照)。

- 2011～15 年度の JSDF への日本の拠出額は、プログラム設立来の累積拠出額の 29%。
- 2015 年度の配分は、2011～15 年度の配分総額の 12%。
- 2011～15 年度の実行額は、設立から 2015 年度までの累積実行額の約 47%。
- 2015 年度の実行額は、2011～15 年度の実行総額の約 23%。



**表 1.1**  
設立以降の JSDF の概観  
(単位：100 万ドル)

拠出額	
設立から 2015 年度	694.46
2011～15 年度	203.01
2015 年度	1.95
未配分額 2015 年度	
	210.75
配分額	
設立から 2015 年度	624.42
2011～15 年度	202.91
2015 年度	23.76
実行額*	
設立から 2015 年度	472.19
2011～15 年度	223.76
2015 年度	50.86

出典：DFPTF

\* シード基金グラントを含め、援助受入国と世界銀行が実践したすべてのグラントを含む。

## JSDF グラントの承認

2013～15年度、通常プログラムの下で承認されたグラントの件数は、前年まで(2011～12年度)を下回りました(詳細は表1.2を参照)。

2012年度以降、JSDFの活動は、小規模な受入国実施型信託基金(RETF)グラント・ガイドラインを通じて、世界銀行の投資プロジェクト・ファイナンス・プロセスに全面的に統合されています。同ガイドラインでは、国別局長の承認に先立ち、2段階の承認プロセスが求められおり、日本が最終的な承認権限を持っています。RETFガイドラインでは、締切日を設けないローリング方式のプロポーザルの提出が求められています。同プロセスは、ある程度の時間を要するものの、申請時の品質を高め、引いてはプロジェクトの成果を高めるものと期待されています。前年までと比べ、2012年度以降に承認されたプロポーザルが減少したのは、プロポーザルの手続きの変更によるものですが、準備段階では動きがある事から、将来的にはプロポーザルの増加が見込まれます。

 **表 1.2**  
JSDF グラントの種類別承認額と件数 2011～15年度(単位:100万ドル)

グラントの種類	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
<b>通常プログラム</b>										
プロジェクト及び キャパシティ・ ビルディング	20	48.05	16	43.19	5	14.2	6	18.00	5	14.69
JSDF 緊急対応枠	3	6.81	4	14.0	8	21.78	-	-	-	-
<b>その他のグラント</b>										
シード基金	11	0.53	14	0.66	5	0.23	6	0.3	5	0.25
持続可能性基金	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
GDN	1	0.46	1	0.23	-	-	-	-	-	-
<b>合計</b>	<b>36</b>	<b>55.96</b>	<b>35</b>	<b>58.08</b>	<b>18</b>	<b>36.21</b>	<b>12</b>	<b>18.3</b>	<b>10</b>	<b>14.94</b>

出典: DFPTF

## 第2章

# 2015年度のプログラム実績

## 2015年度の援助受入国実施型 グラント・ポートフォリオの概要

2015年度、受入国実施型のJSDFグラント・ポートフォリオは92件、総額2億3,414万ドルに上りました。2015年度には、最後の特別プログラム・グラントである「アフガニスタン：基礎的保健医療パッケージに対する基本的支援プロジェクト」が99%が実行され終了しました。1,765万ドルの同プロジェクトは、目標の達成について「満足」の評価を受けています。受入国実施型グラント・ポートフォリオ全体の内訳を表2.1に示しています。

**表 2.1**  
JSDF 受領者実施グラントの種類・ステータス別割合 (件数、単位：100万ドル)

	通常プログラム		特別プログラム		JSDF 緊急対応枠		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2015年度に法的に終了	20	33.91	1	17.65	9	23.95	30	75.51
実施中	51	128.10	0	0	11	30.53	62	158.63
<b>合計</b>	<b>71</b>	<b>162.01</b>	<b>1</b>	<b>17.65</b>	<b>20</b>	<b>54.48</b>	<b>92</b>	<b>234.14</b>

出典：DFPTF

## 実行

2015年度の累積実行額は1億4,203万ドルに上りましたが、これはポートフォリオの61%に当たります。2015年度、実施中のグラントの実行率は48%で、終了したグラントの90%が実行されました。実施中のグラントの実行率が高くなかったのは、立ち上げの遅れや成果が出る状況になるまでに時間がかかった事が一因と見られます。終了した4つのグラントは、実行率

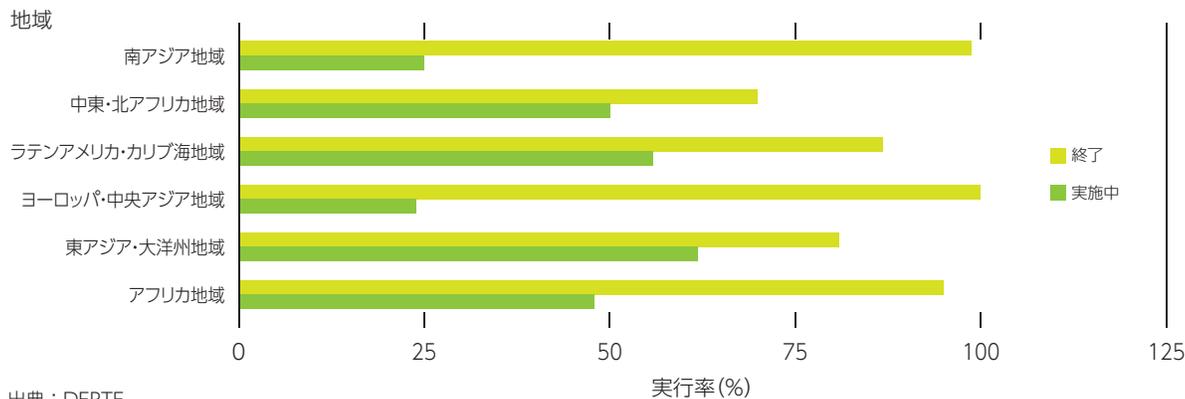
100%でした。終了した9件のプロジェクト(ラテンアメリカ・カリブ海地域、アフリカ地域、東アジア・大洋州地域、南アジア地域でそれぞれ2件、ヨーロッパ・中央アジア地域で1件)は、ほぼ100%実行され、他の6件のプロジェクト(ラテンアメリカ・カリブ海地域で3件、アフリカ地域で2件、中東・北アフリカ地域で1件)は90%以上実行されました。詳細は下記の表 2.2 と図 2.1 に示されています。

**表 2.2**  
2015年度のポートフォリオ：実施中のgrantと終了したgrantの地域別累積実行実績

地域	grant件数	grantの総額 (単位：100万ドル)	実行した grantの総額 (単位：100万ドル)	実行した割合 (%)
アフリカ地域 (AFR)	27	68.28	39.29	58
東アジア・大洋州地域 (EAP)	13	33.78	22.80	67
ヨーロッパ・中央アジア地域 (ECA)	5	12.38	4.23	34
ラテンアメリカ・カリブ海地域 (LCR)	25	45.87	31.19	68
中東・北アフリカ地域 (MENA)	12	31.54	17.43	55
南アジア地域 (SAR)	10	42.29	27.09	64
<b>合計</b>	<b>92</b>	<b>234.14</b>	<b>142.03</b>	<b>61</b>

出典：DFPTF

**図 2.1**  
地域・grant・ステータス別の実行実績 (grant総額に占める割合)



出典：DFPTF

## プログラムの焦点

2015年度、JSDFプログラムは引き続き、世界銀行グループ加盟国で開発が遅れている最貧困・最脆弱コミュニティへの対応という点に力を注ぎました。2015年度にはまた、通常プログラムとシード基金で10件のグラント(約1,495万ドル)が承認され、TICAD V 枠の下、コンセプト・ノートの承認プロセスが開始されました。さらに、シード基金グラントの協議が終了しました。これらのグラントについての詳細は本章に後述します。

## 通常プログラム

2015年度、通常プログラムでは5件の新規グラント、総額1,470万ドルが承認されました。この内、約40%がアフリカ地域 (AFR) に対するもので、南アジア地域 (SAR) と中東・北アフリカ地域 (MNA) がそれぞれ20%、ヨーロッパ・中央アジア地域 (ECA) は18%でした。表2.3に資金配分の詳細を示しています。



**表 2.3**  
2015年度に新規に承認された通常プログラム向けプロポーザル  
(単位：100万ドル)

信託基金	グラント名	国	地域	開始日	グラント総額
TF018040	オディシャ州、マディヤ・プラデシュ州、ジャールカンド州で、社会から取り残された部族コミュニティへの包摂的なビジネス・モデルの構築	インド	南アジア地域	10/25/14	3.00
TF018661	貧困コミュニティとジョージア観光セクターの零細起業家のエンパワーメント	ジョージア	ヨーロッパ・中央アジア地域	1/15/15	2.70
TF019238	女性若年層の生活の質向上と栄養不良対策プロジェクト	ザンビア	アフリカ地域	7/13/15	3.00
TF019188	心理社会的健康と強靱性確保の支援	リベリア	アフリカ地域	5/22/15	3.00
TF0A0350	所得機会拡大プロジェクト	ジブチ	中東・北アフリカ地域	8/27/15	3.00
<b>合計</b>					<b>14.70</b>

出典：DFPTF

注：TF019238のグラント総額は2.995から切り上げ。

## シード基金 Grant

JSDF シード基金 Grant は、世界銀行が実施する Grant で、各プロジェクトのタスクチームがステークホルダーとの協議を行うために提供されます。さらに重要な点として、対象となる受益者が確実にオーナーシップを持つよう、現地レベルでの参加型協議プロセスを支援しています。またこの協議プロセスを通じ、コミュニティ自らが、脆弱性解消ならびに優先すべき開発事項への対応に資する活動を特定できます。JSDF プログラムの対象となるのは、辺境地や交通の便が悪い農村部や都市周縁に住む、不利な立場にある人々が中心です。こうした環境で Grant 資金による投資を設計・選定するには、特別にアウトリーチ活動を行うと共に、円滑な参加型アプローチを実施する必要があります。従って、効果と持続可能性を最大限に高めるために、設計と準備段階において、現地の NGO などコミュニティ組織の関与が欠かせません。

2015 年度は、2014 年度の 6 件を下回る 5 件のシード基金 Grant、総額 24 万 7,100 ドルが承認されました。承認された Grant には、ジブチ総合支援パッケージに含まれる「貧困層への法律扶助サービスのパイロット・プロジェクト」があります。詳細は表 2.4 に示しています。

 **表 2.4**  
2015 年度に承認されたシード基金 Grant

Grant・プロポーザル名	地域/国	Grant 金額 (単位: ドル)
乳幼児の栄養不良対策パイロット・プロジェクト	アフリカ地域/ブルンジ	50,000
妊娠前の栄養不良対策	アフリカ地域/モザンビーク	50,000
貧困層への法律扶助サービスの試行	中東・北アフリカ地域/ジブチ	50,000
現地コミュニティの開発 - 南ヘルマン発電所	中東・北アフリカ地域/エジプト	47,100
食糧と栄養不足に対する家庭とコミュニティの強靭性	アフリカ地域/セネガル	50,000
<b>合計</b>		<b>247,100</b>

出典: DFPTF

## アフリカ開発会議 V (TICAD V) 行動計画の実施

第 5 回アフリカ開発会議 (2013-2017) 行動計画が実施に移されています。同プログラムでは、JSDF の 2 つの新しい枠を通じて、アフリカの成長、保健、雇用創出に向けた複数のイニシアティブを支援するため、日本政府が 3,000 万ドルを配分しています。

- 栄養不良対策、2,000 万ドル
- 元戦闘員の武装解除、動員解除、社会復帰の支援、1,000 万ドル

## 栄養不良対策

「**栄養不良対策**」枠を通じ、6カ国で活動が様々な準備段階にあります。その内4カ国ではプロジェクトがコンセプトの準備段階にあり、モザンビークとトーゴの活動がコンセプト直前の段階にあります。詳細は囲み 2.1 をご参照ください。

## 元戦闘員の武装解除、動員解除、社会復帰の支援

2015年度、「**元戦闘員の武装解除、動員解除、社会復帰の支援**」枠で資金を提供された複数のグラントが、コンセプト審査の段階にありました。

- **紛争の影響下にある南スーダンの若者の経済的エンパワメント**：300万ドルの同プロジェクトは、南スーダンの3つの対象地域において、紛争の影響下にある若者に経済的エンパワメントの研修プログラムを提供します。
- **コンゴ民主共和国オリエンタレ州の社会的結束と生計支援プロジェクト**：300万ドルの同プロジェクトは、ドゥング地区で紛争や暴力の影響下にある5つの対象コミュニティにおいて、生計手段へのアクセス改善と社会的な結束の強化を目指します。

## 囲み 2.1

### アフリカにおける栄養不良対策の拡大

JSDF が新たに設置した栄養不良対策の拡大グラント枠に対して、数カ国が、支援対象の適格性を満たしたプロジェクトのコンセプトを策定しました。

**ブルンジ：乳幼児向け栄養価の高い食事パイロット・プロジェクト (300万ドル)** は、ジホフィとマカンバの対象グループに、微量栄養素が豊富な食糧の生産と消費の拡大を図ります。特に、中長期的な慢性栄養不良の軽減を図るため、有効な栄養摂取習慣を短期間に導入します。こうした目的は、以下の活動を通じて実施されます。

- コミュニティ全体に栄養状態改善につながる習慣を浸透
- 微量栄養素が豊富な食糧の生産を拡大
- プロジェクト管理、政策支援、モニタリング・評価を強化

**セネガル：不安定な食糧供給と栄養不足に対する家庭とコミュニティの強靱性プロジェクト (300万ドル)** により、食糧と栄養への安定したアクセスを目指します。これには、国内対象地域の脆弱な家庭へのサービス強化も含まれています。

**コートジボワール：栄養価に配慮した農業と周縁部の零細農家の能力構築支援プロジェクト (300万ドル)** により、国内の複数の対象地域で、栄養価が高い植物性・動物性食品への貧困世帯のアクセス改善を図ります。具体的には、多様な農作物の栽培を促し、栄養価の高い食糧を確保できるようにし、貧困世帯の所得を拡大しつつ、衛生状態改善の取組みを進め、健康状態と栄養状態の改善を図ります。

**エチオピア：コミュニティ主導型の栄養改善パイロット・プロジェクト (300万ドル)** により、サシエ・ツァエダ・エンバ、セハティー・サムレ、ティガリーにおいて、コミュニティ主導の栄養摂取と生計確保のサービスに対する若い女性のアクセスを支援します。

- **コンゴ共和国のプール地方における、持続可能な生計手段促進プロジェクトの支援** (300 万ドル)：同プロジェクトでは、プール地方の対象コミュニティにおける生計手段へのアクセス改善が期待されています。

上記 3 つのグラントはいずれも、2016 年度中に承認される見込みです。

## JSDF とグローバル・ディベロップメント・ネットワーク (GDN) の協力

2010 年、日本政府は革新的な開発を支援するため、世界銀行グループと GDN の 5 年間のパートナーシップを開始しました。498 万ドルがコミットされ、日本開発政策・人材育成基金 (PHRD) が支援するプロジェクト部門国際開発賞 (MIDP) を通じて提供される事になりました。MIDP 賞はリサーチ部門日本国際開発賞 (ORD) と共に、年に一度行われる国際開発賞の一部門です。2015 年度、このパートナーシップがさらに 3 年間延長され、166 万ドルがコミットされました。

MIDP 賞は、プロジェクトの初期段階で斬新なアプローチを採用し、貧困層への開発インパクトに高い潜在性を示した NGO に授与されます。選考基準にはイノベーション、社会的影響、他国での応用の可能性などが含まれます。

受賞者には、JSDF を通じて最大 20 万ドルのグラントを申請する資格も与えられます。また GDN には、グラントを受領した NGO の活動をモニターするための資金 3 万ドルが日本政府から提供されています。

## モロッコでの GDN 会議

2015 年度の GDN 会議のテーマは「持続可能な成長のための農業：新たな緑の革命の課題と機会」でした。農民女性のエンパワーメント・プログラムを提唱したインドのチンマヤ農村開発機構が、MIDP と 3 万ドルを受賞しました。同プログラムは、コミュニティ主導型の組織構造を駆使して、社会から取り残された農民女性の力を結集しようというものです。受賞したチンマヤ農村開発機構には、GDN 経由で 20 万ドルの JSDF 資金を獲得するためのプロポーザルを提出する機会が与えられました。

次点の 1 万ドルはバングラデシュの JAAGO 財団とスリランカ野生動物保護協会 (SLWCS) の 2 つの団体に授与されました。

JAAGO 財団は、バングラデシュでオンライン授業プロジェクトを運営しており、教員免許を持つ都市部の教師が農村部の生徒とペアを組んで授業を行っています。次点となった同プロポーザルは、電源を太陽光発電に切り替える事によりプログラムの拡大を目指します。

SLWCS プロジェクトは、オレンジを植えて自然のフェンスを作る事により、スリランカで続く、人間の居住地に出没する象の問題の解消を提案しています。

## 第3章

# 2015年度のポートフォリオ実績

## ポートフォリオの評価

2012年度以降、JSDFプロジェクトの実績の報告システムは、世界銀行グループの投資プロジェクトへの資金提供に関する報告プロセスと統合されました。これによりJSDFプロジェクトのタスクチーム・リーダー(TTL)は、世界銀行グループの標準的な実施状況報告書(ISR)を通じて、予め設定されたプロジェクト開発目標の達成について成果と実施状況を報告します。TTLは成果と実施状況の両方のカテゴリーについてプロジェクトの実績を「大いに満足」(HS)、「満足」(S)、「やや満足」(MS)、「やや不満足」(MUS)、「不満足」(US)、「大いに不満足」(HUS)の6段階で評価します。

2015年度、JSDFグラントの実績は好調で、約91%のプロジェクトが、開発目標の達成で「やや満足」か、それ以上の評価を受けました。この数字は2014年度を1ポイント、2013年度を3ポイント、それぞれ上回っています。すべてのプロジェクトの中では、アフリカのプロジェクト1件が「大いに満足」と評価されました。また、東アジア・大洋州地域のプロジェクト1件と南アジア地域のプロジェクト1件が、「不満足」と評価されました。詳細は表3.1をご参照ください。

**表 3.1**  
プロジェクト開発目標の評価

地域	グラント件数	「やや満足」以上	「やや不満足」以下
アフリカ地域	27	25	2
東アジア・大洋州地域	13	12	1
ヨーロッパ・中央アジア地域	5	5	0
ラテンアメリカ・カリブ海地域	25	22	3
中東・北アフリカ地域	12	11	1
南アジア地域	10	9	1
合計	<b>92</b>	<b>84</b>	<b>8</b>

出典：DFPTF

## 主なプロジェクト成果

2015年度、JSDF プロジェクトは、貧困をもたらす多様な側面に起因する複雑な問題への対応に重点的に取り組みました。JSDF の戦略的アプローチは、開発に影響がある活動に貧困層が参加できるように、現地コミュニティ・レベルでエンパワメントを実施する事で、コミュニティ主導型の活動を支援します。例えば、栄養不良対策と保健状態の改善を組み合わせる事で、生活の質向上を目指す一方、農法を改善して生産性の向上、所得の創出、栄養改善を図ります。教育、安全な水の供給と衛生、法律サービスへのアクセス改善にも重点が置かれています。他には気候変動への適応、女性起業家のエンパワメント、ガバナンスの向上を目指す取り組みがあります。プロジェクトの大半は、母子家庭、栄養不良児、青年期女子、妊婦、授乳中の母親、若者、小規模な採掘コミュニティ、先住民族コミュニティ、障害者、紛争や世界的な景気後退、気候変動の影響下にあるコミュニティなど、最貧困層・最脆弱層が対象です。

2015年度に実施された JSDF プロジェクトの代表例を囲み 3.1 に紹介しています。

### 囲み 3.1

#### 2015年度に実施された JSDF プロジェクトの抜粋とその開発目標

アルメニア：障害者を含めた脆弱層に雇用機会を創出し、基本的サービスを提供  
ベリーズ：天然資源による持続可能な生計を促進し、天然資源への人為的な圧力を軽減  
ベナン：栄養不良の比率が高い農村部の幼児の栄養状態を改善  
ブルキナファソ：小規模放牧家庭の家畜主体の生計維持を支援  
コモロ：食糧不足の地方における短期雇用へのアクセス拡大  
ジブチ：短期雇用の創出と子供、妊婦、授乳中の母親の栄養摂取の習慣を改善  
エルサルバドル：国内の乾燥地帯の農家による干ばつと食糧不足への対応を支援  
グアテマラ：食糧不足に対するマヤ先住民族の強靱性を強化  
ホンジュラス：コミュニティ主導型学校モデルを7-9年生に拡大  
ラオス：生計重視のコミュニティ主導型開発(CDD)プログラムを通じて脆弱な貧困家庭を援助  
マラウィ：革新的な手法を用いて、障害児の普通学級への就学を促進  
モンゴル：ウランバートル都市部の貧しい最脆弱層に追加収入を創出  
ナイジェリア：司法アクセスを拡大  
フィリピン：収入拡大と金融サービスへのアクセスを向上し、市場連動型のコミュニティ企業を構築  
シエラレオネ：小規模なダイヤモンド採掘コミュニティの代替雇用への移行を支援  
タンザニア：国家プログラムが行き渡っていない地域で、生命線となる食糧供給強化を実施  
トーゴ：農村部の住民向けの社会的セーフティネットのアクセスを拡大  
タイ：都市部の貧困家庭に対する所得支援  
チュニジア：若者の短期雇用によって緊急の所得支援を実施  
ウガンダ：特に貧しい自作農世帯の2歳未満児、青年期女子、妊婦を中心に、栄養価の高い穀物の耕作と消費、栄養に配慮した食生活を促進  
ベトナム：聴覚障害児を社会の主流に取り込む支援  
シエラレオネ：小規模な採掘人コミュニティの脆弱層のための持続可能な生計を強化  
スリランカ：国内北部の妊婦、授乳中の母親、乳児の栄養不良の割合を軽減  
南アジア地域：バングラデシュとネパールにおいて貧困層のための世界銀行プロジェクトの開発のインパクト、持続可能性、受益者のオーナーシップの強化。優れたガバナンスに向けた、プロジェクトへの市民社会の関与、経験とキャパシティの促進  
イエメン：世帯レベルで食糧不足を軽減し、栄養摂取の習慣を改善

次のセクションでは、2015年度に実施されたプロジェクトの成果の一部をプロジェクトの目的別に紹介します。

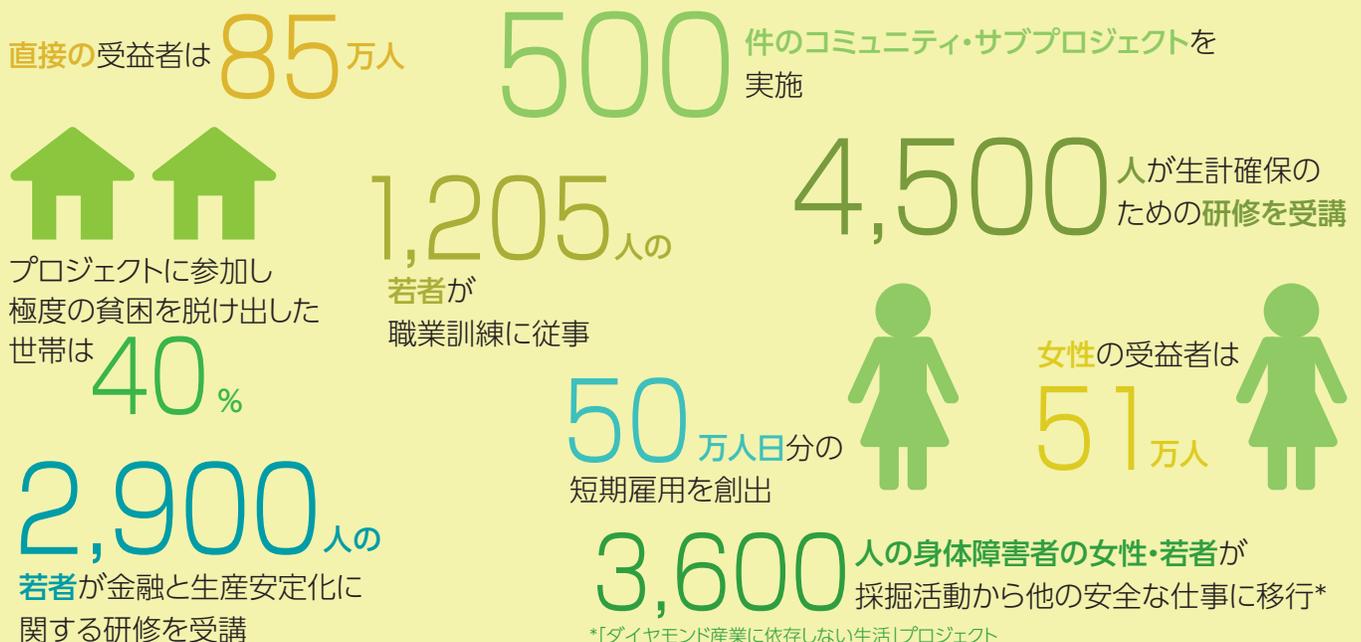
- 生活の質の向上
- 栄養改善
- 教育
- 農業
- 司法アクセス
- 水と衛生
- 気候変動と適応
- ガバナンス

多くのプロジェクトは、生活の質向上、農業、栄養改善など、複数のテーマが焦点になっています。プロジェクト完了時に達成を目指した目的と、2015年度時点での結果の比較も示されています。

## 生活の質の向上

JSDFの生活の質向上プロジェクトは、危機後のコミュニティや都市部の貧困コミュニティを支援するもので、都市部と農村部の脆弱な若者、少数民族、採掘コミュニティ、職人、脆弱な女性、障害者などが対象です。同プロジェクトはまた、経済的な機会の拡大を目指した活動も行っています。そのために、短期の労働集約型コミュニティ・インフラ・プロジェクト、コミュニティ・ベースの小規模な畜産・漁業プロジェクト、天然資源を活用した持続可能な代替生計手段、若者主体の起業、栄養改善によるセーフティネット・プログラム、職業訓練など、様々なアプローチが用いられています。

## 数字で見る開発成果



## ジブチ：危機対応としての雇用と人材セーフティネット (364 万ドル)

**開発目標：**脆弱な貧困世帯が対象の革新的な総合セーフティネット・パイロットで、社会保障プログラムと、コミュニティ主導・参加型アプローチを用いた栄養改善のための社会扶助を組み合わせ、キャパシティ・ビルディングの支援も行います。具体的には、貧困層と脆弱層のための短期雇用機会の創出、栄養摂取の習慣改善を図ります。栄養摂取の習慣改善では、未就学児、妊婦、授乳中の母親を重点対象とし、水の管理、衛生、食品の取り扱い、育児についての知識を高め、姿勢や習慣を変えるための教育を実施します。

**実績：**パイロット・プロジェクトの結果は、栄養改善を組み合わせた社会的ソーシャルネットの構築がいかに効果的かを改めて裏付けるものでした。社会保障プログラムと栄養改善の取組みとの相乗効果を目指すこの手法は、健康、衛生状態、食習慣の改善だけでなく、世帯収入の拡大、女性のエンパワーメントと格差の是正につながります。同パイロット・プロジェクトにより、栄養不良についての認識が高まり、その改善への意識が国家レベルにまで引き上げられました。さらに、世界銀行グループの国際開発協会 (IDA) が資金を提供する後続プロジェクトと IDA からの追加資金提供に道を開きました。同プロジェクトは、すべての指標において目標を達成又は上回り、貧困問題への多様な対応が効果的に行われました。詳細は表 3.2 をご参照ください。



ジブチのジブチ市バルバラ：視覚ツールを使って、栄養摂取の望ましい習慣について説明する模範の母親。JSDF の社会的セーフティネット・プログラムの中で計画された意識向上キャンペーンの一環。

**表 3.2****プロジェクトの成果：ジブチ：危機への対応—雇用と人材のセーフティネット**

指標	実績	目標
不参加世帯との比較で、プロジェクト参加世帯が極度の貧困を脱け出した割合 (単位：%)	40	20
短期雇用の創出 (単位：人日)	223,300	180,000
世帯調査で見る多様な食習慣への意識の変化 (単位：%)	28	20
プロジェクト参加者の栄養改善 (単位：%)	98	40

出典：DFPTF

注：極度の貧困脱出の割合は、50日間の短期雇用を受けた世帯数を基に推定。  
コミュニティ主導の労働集約型公共事業プログラムでは、受益者の77%が女性。**ラオス人民民主共和国：少数民族コミュニティの生活の質と福祉の向上に向けた生計手段確保の機会 (262万ドル)**

**開発目標：**2つの県(北部のファパンと南部のサバナケット)の5つの貧困削減優先地区において、生計手段に焦点を絞った革新的なコミュニティ主導型開発(CDD)プログラムを試行します。目的は、グループ主導の活動を通じてラオス農村部の少数民族コミュニティに暮らす2万8,800世帯の生計手段の確保と福祉の向上を支援する事です。

**実績：**同プロジェクトは、開発目標の達成に大きな進捗を遂げました。また、同プロジェクトで試行されたCDDプラットフォームによる生計手段と栄養改善モデルは、より大きな拡大の可能性を秘めています。

**表 3.3****プロジェクトの成果：ラオス人民民主共和国：少数民族コミュニティの生活の質と福祉の向上に向けた生計手段確保の機会**

指標	実績	目標
直接の受益者数	28,512	28,800
女性受益者の割合	60	50
対象世帯の内、栄養に配慮した、より良い生計活動を取り入れた世帯の割合	60	60
グラント資金配分の意思決定に関与したコミュニティ・メンバーの割合	60	60
生計確保の機会が拡大したとする自助グループ(SHG)メンバーの割合	73	70

出典：DFPTF

- 関心や共通点を基に独自にメンバーを選び、300以上の自助グループ(SHG)を結成
- SHGは、プロジェクトから総額66万ドルのシード基金グラントを活用し、4,000世帯以上に与信枠を提供
- 援助対象世帯は、家禽やナマズなど飼育期間が短い家畜の小規模生産を開始
- 融資は、6～12カ月以内に利子をつけてSHGに返済
- SHGの資本基盤が拡大。会員個人の毎月の貯蓄(2015年度時点で総額2万4,000ドル)に加え、緊急事態発生時に低金利で融資を受けられる事ができるため、貧しい会員の大きなセーフティネットとして機能
- プロジェクトで設立された村落栄養センター(VNC)は、受益者である村民の約60%の食習慣を改善。家庭菜園での栄養価の高い野菜作りを促してバランスの取れた食事を実現すると共に、VNSで栄養価の高い食事の作り方などの講義や実演を実施。

## ベリーズ：天然資源を活用した持続可能な生計手段の強化(280万ドル)

**開発目標：**参加コミュニティに対する天然資源を活用した有効で持続可能な生計手段の強化により、天然資源への人為的負荷の軽減を目指します。

**プロジェクトの実績：**同プロジェクトは、コミュニティワークショップを開催した他、ジェンダー分析、プロポーザル作成の研修、モニタリング・評価(M&E)の研修を含む、コミュニティの動員プロセスはほぼ終了しています。コミュニティ主導の代替生計手段のコンポーネントの進捗は緩やかです。その理由は主に、参加している多くのコミュニティ・グループにとって、こうした活動は馴染みがなく、コミュニティの動員とキャパシティ・ビルディングに時間を要するためです。

**表 3.4**  
プロジェクトの成果：ベリーズ：天然資源を活用した持続可能な生計手段の強化

指標	実績	目標
新たな知識や技術を用いて、天然資源を活用した持続可能な代替生計手段に直接関与した人数	850	3250
女性受益者の割合	30	25
採用・実施されたコミュニティ資源管理計画の件数	2	8

出典：DFPTF

## シエラレオネ：小規模採掘コミュニティ (275 万ドル)

**開発目標：**小規模採掘コミュニティで、コミュニティ主導のキャパシティ・ビルディング、エンパワーメント、参加型の意思決定を試行します。特に、環境や社会面の課題についての社会的説明責任と連携の強化を主眼とし、女性を含め、コミュニティの最脆弱層の参加を促し、持続的な生計手段の改善を目指します。小規模なダイヤモンド採掘 (ASM) から、農業など持続可能性の高い代替生計手段への移行支援も、もう 1 つの目標です。

**実績：**プロジェクトは順調に実施されました。資金は全額が実行され、開発目標が達成されました。独立評価は、以下の結論を導いています。

- 120 のコミュニティで実施された約 108 件のサブプロジェクトの下、農業と農業ビジネスを中心に、採掘人が持続可能な代替生計手段への移行を選択できるようになり、受益者の生活が一変
- 受益者は、村落開発協議会の構造が参加型意思決定を可能にし、緊密な連携を促し、コミュニティ主導の開発を促進したと証言
- 「ダイヤモンドに依存しない生活」プロジェクトを 6 つの地域の 120 のコミュニティで実施。これまでに、ブロック・グラントの活動を通じ 1 万 1,250 人が恩恵を享受し、内 80% は女性と若者
- 108 件のコミュニティ・プロジェクトが終了済み、又は終了間近
- インフラ・プロジェクトが、1,750 人以上の雇用機会を創出
- 現地の開発のためのキャパシティ・ビルディングと技術研修が大きな成果を上げ、1 万 1,250 人がコミュニティ・トレーニングの恩恵を享受。さらに、75 の鉱山学校クラブが結成され、400 人の学生が環境や社会面の課題について学習。十代の妊娠や児童労働、HIV / エイズ、環境問題など鉱業関連の社会問題についてコミュニティの認識が向上
- 現地の裁量に任せたグラントを通じて、75 件のコミュニティ・プロジェクトが終了
- 対象となった 4,500 人の若者、女性、身体障害者の 80% が研修を受け、現在、生計手段を採掘活動から農業へと移行

政治家が15年かかってもできなかった事を

JSDF プロジェクトは1年足らずで達成、

と村人たち。

ファンドゥ橋が、コノ地区に大きな経済的变化をもたらす見込み。

## チュニジア：若者に対する JSDF 緊急支援 (278 万ドル)

**開発目標：**約 3,000 人の若者に緊急の所得援助と短期雇用を提供します。そのために、キャッシュ・フォー・ワーク (労働の対価としての福祉を受ける制度)、研修、徒弟制度、自営の機会を通じて、対象となる若者の基本的なニーズを満たす事を目指します。

**実績：**2015 年度の主なプロジェクト成果は、以下の通りです。

- カスリン県とシリアナ県の約 3,378 人の若者が恩恵を享受し、内 49%は若い女性 (プロジェクトの受益者目標は 3,000 人)
- 2,412 人の若者が若者コミュニティ・プロジェクトに参加 (約半数は若い女性)
- およそ 525 人の若者が職業訓練に参加 (内、約半数が若い女性)
- 430 人の若者が徒弟制度を活用
- 441 人の若者が小規模な起業の研修に参加 (内、半数は若い女性)
- 293 人の若者が、若者主導の起業グラントを受領

### 図み 3.2

#### プロジェクトの成果： チュニジアのプロジェクト受益者 180 人のサンプル調査

- 98%が、プロジェクトで提供された訓練が役立ったと回答
- 93%が、プロジェクトは役立ったと回答
- 受益者の 80%が、プロジェクトの結果、より積極的に活動
- 92%が新たな技術を習得
- 参加者のほぼ 100%が金融に関する知識を高め、金銭管理を強化

## アルメニア：脆弱層と障害者の生活の質向上と発言力の拡大 (267 万ドル)

**開発目標：**障害者を含め、アルメニアの極貧層と脆弱層に不可欠なサービスを提供すると共に、自立した生計手段を生み出し雇用機会を創出する取組みを試行します。

**実績：**同プロジェクトは、2016 年 3 月の終了日までに活動を終了し、開発目標を達成できる予定です。

**表 3.5**  
プロジェクトの成果：アルメニア：脆弱層と障害者の生活の質向上と発言力の拡大

指標	実績	目標
職業訓練プログラムを終了済み／参加中の参加者の人数	688	800
持続的な雇用就いている卒業生の数	87	200

出典：DFPTF

## フィリピン：貧困脱出の手段としてのコミュニティ企業開発 (293 万ドル)

**開発目標：**対象となる市町村の貧困世帯の生計手段と生活の質を改善します。そのために、所得創出の促進、金融サービスへのアクセス改善、市場に連動したコミュニティ主導の企業開発、地方経済の発展支援を図ります。

**実績：**これまでのところ、同プロジェクトは、社会的な側面に加え、コミュニティ企業、地方政府の関係部署、CSO パートナー、マイクロファイナンス機関との連携で満足の行く進歩を遂げています。表 3.6 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。



**表 3.6**

### プロジェクトの成果：フィリピン：貧困脱出の手段としてのコミュニティ企業開発

指標	実績	目標
キャパシティ・ビルディング・グラントとスタートアップ・グラントの提供を受けたコミュニティ企業 (所属する市町村の全企業に占める割合) (%)	6	6
金融と、生産の市場要件について研修を受けた小規模生産者の数	2,900	6,000

出典：DFPTF

## チュニジア：コミュニティ・プロジェクトの仕事と現地住民の参加 (287 万ドル)

**開発目標：**コミュニティ主導の労働集約型公共事業の仕事への参加を通じて、高い技術を持たないため長期間失業している市民の所得確保を直接支援します。ジェンドゥーバ県の市民社会協会が、多くの住民の参加するプロセスにより、プロジェクトの種類を決定します。

**実績：**プロジェクトの実施は、「満足」との評価を得ています。効果的かつ効率のよい公共事業の実施を阻む要因を特定した上で、改善すべき点を明らかにするため、プロセス評価が実施されました。同評価の結果、インフラ・プロジェクトへの官民パートナーシップ (PPP) の導入と、徹底したモニタリング・評価 (M&E) システムの策定が、有効性と効率性の向上に不可欠な要因であるとされました。その上で実際に、PPP モデルの導入、NGO との連携によるサブプロジェクトの特定と実施、徹底した M&E システムの策定が行われました。表 3.7 は 2015 年度時点の主な成果をプロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.7**  
プロジェクトの成果：コミュニティ・プロジェクトの仕事と現地住民の参加

指標	実績	目標
高い技術を持たないため長期間失業している市民 3,000 人の内、コミュニティ・プロジェクトにより一時的な所得支援を受けた人の割合	100	90
女性の直接受益者の割合	44	30
対象コミュニティでインフラとサービスを復旧・強化できた地方組織の割合	94	80

出典：DFPTF

## モンゴル：ウランバートル都市部の貧困層向けコミュニティ・インフラ (277 万ドル)

**開発目標：**ウランバートルで、基本的なサービスが極端に限られたゲル地区（テント街）に暮らす約 1 万人の脆弱な都市貧困層を支援します。同プロジェクトは、コミュニティ主導のインフラ整備の拡大と雇用創出により、低所得の住民のための追加収入確保を目指します。

**実績：**コミュニティ・グループの 66% は女性が代表を務めています。コミュニティ・プロジェクトに雇用されている女性は全体の 36.1% に過ぎません。最大の理由は、大半の仕事が肉体労働を要する建設業で、女性には困難な仕事だからです。これまでに、3 万 4,660 人以上がプロジェクト・ファイナンスを受けたコミュニティ施設を日々利用していますが、新しい施設の保守管理にも引き続き対応する必要があります。表 3.8 に、2015 年度現在の主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.8**  
プロジェクトの成果：モンゴル：ウランバートル都市部の貧困層向けコミュニティ・インフラ

指標	実績	目標
プロジェクト・グラントによるコミュニティ・インフラ事業の仕事で 1 日 8 ドルの追加収入を得ている人の数	16,900	10,000
女性が代表を務めるコミュニティ・グループの割合	66	50
母子家庭、失業者、障害者、低所得世帯など、ウランバートルのゲル地区の最脆弱層が受益者に占める割合	98	80

出典：DFPTF

## タイ：都市部の貧困層のためのコミュニティ主導の生活の質向上 (285 万ドル)

**目標：**タイ都市部の貧困コミュニティにて約 3,000 の脆弱世帯の所得確保を支援し、生活環境を改善します。

**実績：**同プロジェクトは、市町村当局との間で強力なパートナーシップと協力関係を築く事ができました。生活環境は、以下の通り改善しています。

- 質の高い家屋修理によって生活環境が大きく改善
- 多くの住民が飲み水と電気を利用できるようになり、新たなポンプ所と排水システムにより、洪水のリスクが減少
- 排水システム改善により汚水が減少し、生活の質が大きく向上
- プロジェクトから得た所得を、貯金や借金返済に充て、少数ながら一部の受益者は小規模ビジネスにも投資

一部のコミュニティからは、予想していなかった恩恵も報告されました。同プロジェクトは、社会の結束を図る上で重要な役割を果たし、コミュニティが効果的に組織された事により、本プロジェクト以外の追加支援の申請につながっています。



**表 3.9**

### プロジェクトの成果：タイ：都市部の貧困層に対するコミュニティ主導の生活の質向上

指標	実績	目標
社会復帰活動として有償労働に参加した人の内、女性が占める割合	30	20
研修を受けたコミュニティ・ボランティアの数	250	200
コミュニティ・サブプロジェクトの実施件数	10	50
プロジェクト 4 分野で策定された専門的裏付けのあるコミュニティ社会復帰計画の数	40	50
対象グループに移転されたコミュニティ・グラントの数	18	50

出典：DFPTF

## コモロ：社会保障プログラムを通じた食糧確保と失業対策の緊急支援 (237万ドル)

**開発目標：**コモロ国内の、食糧が不足する地域において、短期雇用へのアクセスを拡大します。

**実績：**2012年初めにコモロを襲った壊滅的な洪水に積極的に対応した同プロジェクトは、実施と開発目標達成に向けた全体的進歩について、「大いに満足」との評価を受けています。プロジェクトを通じて、洪水の被災世帯は必要な現金を迅速に受け取り、コミュニティは後始末と復興に直ちに着手しました。2015年6月30日現在、社会保障型のマイクロ・プロジェクト212件が完了し、目標の150件を上回りました。プロジェクトにより26万9,861人日の雇用が創出され、直接の受益者は1万700人以上、女性はその内59.6%を占めています。



**表 3.10**

### コモロ：社会保障プログラムを通じた食糧確保と失業対策の緊急支援

指標	実績	目標
創出された雇用 (単位：人日)	269,861	180,000
女性受益者の割合	59.6	50.0
完了した社会保護サブプロジェクトの数	212	150
プロジェクト稼働率 (%)	19.75	18.0

出典：DFPTF

注：22から19.75に低下。輸送費と電気代の上昇により、目標は未達。

## 栄養不良対策

栄養状態改善を目指す同 JSDF プロジェクトは、5歳未満児と貧しい農村部の幼児の慢性的栄養不良の改善、少数民族の子供の早期発育、微量栄養素の不足解消に向けた取組みなど、複数の重点分野を掲げています。対象グループは、小規模農家、危機的状況にある脆弱層などであり、社会的扶助と組み合わせた「労働の対価としての福祉を受ける」プログラム、条件付き現金給付、母や祖母を模範とする革新的な成果達成の仕組み、エンパワーメントなどのアプローチが用いられました。以下は、2015年度に実施された JSDF 栄養改善プロジェクトの成果です。

## 数字で見る開発成果

2,097人の乳幼児(0~24カ月)が  
発育観察と栄養不良対策セッションに毎月参加

31万4,885人が



現金給付の  
恩恵を享受

3万8,369人の

5歳未満児、青年期女子、  
妊婦、授乳中の女性が  
栄養に関する教育と  
基本的な栄養補給サービス  
を受講



プロジェクトが  
対象とする極度の  
栄養不良児の内

59%の  
体重が増加

母乳だけで育てられた乳児が  
全体に占める割合は

67.5%

直接の受益者は

30万845人

「このグラントでの経験は、近々実施予定の  
セクター横断的な食糧確保・栄養補給グラントに  
役立つでしょう。」

—世界銀行グループのマネジャー—

## ウガンダ：自作農世帯の栄養強化に向けた革新的な総合アプローチ (280万ドル)

**開発目標：**マバラ地区とマサカ地区に住む推定 1 万 9,200 戸の特に貧しく脆弱な自作農世帯の栄養状態を改善します。栄養価の高い作物の栽培と消費を促進し、2 歳未満児、青年期女子、妊婦の栄養摂取習慣を改善します。

**実績：**コミュニティ主導の農業と保健サービス活動の進捗状況は、「満足」の評価を受けています。活動に携わるのは、研修を受けたコミュニティの農業プロモーター、つる植物生産者、コミュニティの保健プロモーター(CHP)、青年保健プロモーター(AHP)で、主な成果は次の通りです。

- 研修を受けた CHP が、2 歳未満児の発育について、モニタリングと推進活動を開始
- 研修を受けた AHP による活動に参加するため、青年期女子が選ばれ、保健と栄養分野の活動を開始
- 果肉がオレンジ色をしたサツマイモの栽培支援のため、農家に苗など一式を配布
- 40 人のつる植物生産者を対象に、果肉がオレンジ色のサツマイモを短期間でより多く栽培できるよう、支援を継続。次のシーズンのために、同種のサツマイモをコミュニティ主導で調達できるよう、3 種類のサツマイモの苗も配布

表 3.11 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

プロジェクトの成果を把握するため、世界銀行のジェンダー・イノベーション・ラボが、厳密なインパクト評価を実施しています。なかでも、栄養価の高い作物の導入とそれが栄養面に与える効果、女性の仕事量について重点的に評価します。

**表 3.11** プロジェクトの成果：ウガンダ：自作農世帯の栄養強化に向けた革新的アプローチ

指標	実績	目標
果肉がオレンジ色のサツマイモの栽培を取り入れた参加農家の割合 (%)	8	20
食事の多様性を、最低限確保されている乳幼児 (6 ~ 23 カ月) の割合 (%)	10	15
母乳だけで育てられている乳児 (0 ~ 5 カ月) の割合 (%)	57	67
発育観察と栄養不良対策セッションに毎月参加している乳幼児数 (0 ~ 24 カ月)	2,097	8,000
教育セッションに参加している青年期女子数	1,362	960

出典：DFPTF

## ベナン：コミュニティの栄養不良対策 (280 万ドル)

**開発目標：**母親や祖母を支援するなど、コミュニティ・レベルの革新的な栄養サービスの仕組みを通じて、貧しく、栄養不良の割合が高い農村部において、幼児の栄養改善を図ります。

**実績：**プロジェクトは「満足」の評価を受けています。現時点で、同プロジェクトは、開発指標の目標値すべてを上回っています。特に注目すべき点として、同プロジェクトにより栄養サービスの恩恵を受けた妊婦と授乳中の女性、青年期女子、子供の数が、目標の2倍以上に上りました。嬉しい事に、同パイロット・プロジェクトのベスト・プラクティスとイノベーションは、国際開発協会 (IDA) の資金によるマルチセクター食糧・医療・栄養プロジェクト (MFHNP) の設計に影響を与えています。この点は、MFHNP に関わる NGO の業務範囲と地方政府のキャパシティ・ビルディング計画に如実に表れています。同 IDA プロジェクトは、2013 年 12 月に承認されました。表 3.12 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

ベナンの JSDF  
コミュニティ栄養  
プロジェクト  
を視察する日本  
国大使



**表 3.12**  
プロジェクトの成果：ベナン：コミュニティの栄養不良対策

指標	実績	目標
0～6カ月の乳児の母親で、前日に母乳のみを与えた割合	91	54
対象コミュニティの内、極度の栄養不良児のリスク対策を取り入れたコミュニティの割合	400	75
対象となった極度の栄養不良児の内、体重増加が見られた児童の割合	59	50
基本的な栄養補給サービスの恩恵を受けた妊婦、授乳中の女性、青年期女子、5歳未満児の数	32,438	13,608

出典：DFPTF

## トーゴ：脆弱な子供のための現金給付 (255 万ドル)

**開発目標：**トーゴ北部の農村人口のために社会的セーフティネットへのアクセス改善を目指し、中でも、過去数年間にトーゴで相次いだ危機により悪影響を受けている最脆弱層に対する社会的保護に力を注ぎます。そのために、同プロジェクトは、最脆弱世帯を迅速に支援する現金給付パイロット・プログラムを拡大します。同プログラムは、子供の出生証明書の取得、研修や発育モニタリング・セッションへの参加、学齢期児童の就学といったソフト面を通じ、脆弱世帯の人々の社会参加にも貢献します。

この JSDF グラントは、IDA 資金と同国政府の資金と共に、トーゴ北部における現金給付パイロット・プログラムを支援します。

**実績：**パイロット・プロジェクトは、「満足」の評価を受けています。初回の現金給付は 2 段階に分けて行われ、まず 39 の村落の 3,225 人に、次に 82 の村落の 6,246 人に現金が支給されました。2015 年度に 1 回目の支給を受けた人々が、インパクト評価の対象になっています。

## タンザニア：農村部の食糧強化プロジェクト (263 万ドル)

**開発目標：**タンザニア農村部の微量栄養素不足に対応するため、実効性と持続可能性を備えたアプローチを用いる事で、国家の食糧強化プログラムが及ばない地域における、不可欠な食糧強化支援に向けた今後の導入モデルを提供します。プロジェクトの具体的な目標は、以下の通りです。

- 現行の政府構造を通じて、いくつかの対象地域の小規模な採鉱用粉砕機・家屋強化プログラムを設計・実施する方法を提示
- プログラムのインパクトと持続可能性を評価
- 将来タンザニア全土への持続的、効果的な導入に備えて、同様のプログラムを幅広く拡大する方法について経験を蓄積

**実績：**プロジェクトのペースは 2015 年度、全体的に加速しました。トレーニング・プログラムの終了に伴い、農村の強化と共に様々な地方や地区で食糧強化活動が開始された他、タンザニア保健省と地方自治体による積極的な支援がコミュニティの意識向上に貢献しました。微量栄養素の粉末と混合栄養素が複数の対象村落に届けられると共に、プロジェクトの記録作成プロセスのために、地区と地方組織の機能強化が図られています。表 3.13 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.13**  
プロジェクトの成果：タンザニア：農村部の食糧強化

指標	実績	目標
直接受益者の数	295,800	580,000
対象地区で、前の月に 1 回以上、微量栄養素を摂取した乳幼児 (6 ~ 23 カ月) の割合	32	60
対象地区で、前の月に強化トウモロコシ粉を摂取した世帯の割合	19	40
対象地区で、微量栄養素の粉末と混合栄養素の備蓄のある保健施設の割合	80	70

出典：DFPTF

## イエメン：対象を絞った緊急栄養支援 (273 万ドル)

**開発目標：**世帯レベルで食糧不足を軽減し、対象世帯の構成員の栄養習慣を改善します。

**実績：**イエメンの状況が前年度と比べ大幅に悪化した事を念頭に置く事が重要です。そのため、プロジェクトの実施能力が損なわれ、ペースが鈍化する恐れがあります。しかし、2015 年度現在、同プロジェクトの栄養関連の活動には進歩が見られました。

- 資格を満たした女性受益者 4,750 人を登録
- 169 人の保健トレーナーを選定
- 225 の教育セッションを終了
- 4,569 人の受益者が受給資格を獲得し、初回の支給は 19 万 7,000 ドル
- 極度の栄養不良者 70 人を保健施設で治療し、6 カ月にわたりフォローアップの看護を実施

表 3.14 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.14**  
プロジェクトの成果：イエメン：対象を絞った緊急栄養支援

指標	実績	目標
基本的な栄養サービスを受けている妊婦、授乳中の女性、青年期女子、5 歳未満児の数	4,569	2000
プロジェクトの直接の受益者の数	4,750	3,000

出典：DFPTF

## スリランカ：北部における現地レベルでの栄養支援 (273 万ドル)

**開発目標：**妊婦と授乳中の母親、5歳未満児の栄養不良の割合を軽減する事で、世界の食糧危機と金融危機が、北部地域の不利な立場の人々に及ぼす影響を軽減します。

**実績：**プロジェクト終了時点において、開発目標達成に向けた実施のパフォーマンスと実績は「満足」の評価を受けました。

- 対象となる妊婦、授乳中の母親、乳幼児(0～23カ月)の栄養補給が終了
- プロジェクトの実施と監督を支える政府職員に加え、女性グループのメンバーに対するすべての研修と再研修が終了
- 健康と栄養摂取習慣の変更を促すためのコミュニティの栄養活動とコミュニケーション活動が進行中(栄養に関する展示、様々な配慮のある子供部屋(キリノッチのみ)、家庭菜園、家畜の飼育、台所の改良、2～5歳児が食べる栄養食品ジーバポシャの準備(ムライティプとキリノッチのみ)を含む)

表 3.15 に、現時点での成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。



**表 3.15**  
プロジェクトの成果：スリランカ：北部地域の現地レベルでの栄養支援

指標	実績	目標
乳幼児(0～23カ月)の貧血(ヘモグロビン 11.0 g/dL 未満)の割合(%)	55.4	55.4
妊婦の貧血(ヘモグロビン 11.0 g/dL 未満)の割合(%)	40.4	39.8
乳幼児(0～23カ月)の低体重(対象年齢の標準偏差より2ポイント低い場合)の割合(%)	31.6	29.7
母乳だけで育てられている乳児(0～6カ月)の割合(%)	78.2	81.0

出典：DFPTF

## 教育へのアクセス

このセクションでは、JSDF 教育プロジェクトの代表例の成果を紹介します。JSDF 教育アクセス・プロジェクトは、農村コミュニティの子供の中学校進学準備、聴覚障害の子供の社会生活支援、特に脆弱な子供の学業成績向上を図ります。

## 数字で見る開発成果

320人の

若者／成人(15～40歳)が  
試験的学習施設で  
授業に参加

コミュニティが営む  
学習施設を修了した子供の  
100%が7年生に進学

100

包摂的な初等教育の  
直接的恩恵を  
遊牧コミュニティの

5,700人が享受



200人の

聴者教師が  
手話による授業について  
研修を受講

マラウイの教師

800人が

包摂的教育  
について  
研修を受講



6歳未満の  
聴覚障害児

255人が

手話を学習

聴覚障害者 55人に研修を実施し、  
聴覚障害者のいる家庭のメンターに認定

## ホンジュラス：コミュニティ運営の新型の学校の試験的運営 (171 万ドル)

**開発目標：**ホンジュラスのコミュニティ主導型学校プログラム (PROHECO) の中等教育への拡大を試行し、複数のコミュニティで学習センターを試行します。

**実績：**プロジェクトは意図した開発目標の達成に向けて実施されており、PROHECO モデルが中等教育 (7～9 年生) の効果を試す仕組みの主流となりました。プロジェクトで対象として選ばれた PROHECO の 4 つのパイロット校全てが、7～9 年生を対象に、全国基本カリキュラムという正式な教育プログラムを提供しています。表 3.16 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。



ホンジュラス政府は農村部における  
初等教育アクセス拡大のため、  
1999年にPROHECOを導入。

**表 3.16**  
プロジェクトの成果：ホンジュラス：コミュニティ運営の新型の学校の試験的運営

指標	実績	目標
PROHECO パイロット校 4 校の中等部に進学した生徒の増加数	183	250
PROHECO パイロット校の 7 年生への進学率 (%)	102	90
試験的学習施設の授業を受けている 15～40 歳の若者と成人の数	320	250

出典：DFPTF

注：PROHECO パイロット校 4 校の 7～9 年生に進学した 154 人は、公立学校が提供する全国基本カリキュラムを使用

## マラウイ：障害児に対する包摂的教育（183 万ドル）

マラウイ：包摂的教育プロジェクトによる障害児への指導



**開発目標：**障害児の普通学級参加を促す革新的な方法を試行して、包摂的教育政策を推進します。

**実績：**同プロジェクトは、障害児の普通学級参加の促進において満足のゆく進捗状況を示しています。

- 障害児の親が、150の学校でコミュニティの認知と動員キャンペーンを実施
- 組織・動員セッションでは、14地区のステークホルダー・ミーティング、3コミュニティのステークホルダー・ミーティング、9コミュニティでの動員活動、ステークホルダー全員を一堂に集めた2件のオープンハウスを開催
- 2つの地区の教師800人を対象に包摂的教育について研修を実施
- 15の学校に直接支援を提供
- 実施機関のスタッフが包摂的教育方針に関する対話の研修を受け、国の教育省代表と会談

## ベトナム：聴覚障害児教育・家族支援（280 万ドル）

**開発目標：**幼い聴覚障害児を社会の主流に取り込むため支援します。同プロジェクトの主な受益者は、未就学の聴覚障害児、聴覚障害のリーダー、手話通訳、聴覚障害者を教える聴者教師です。

**実績：**同プロジェクトは、目標達成に向けて順調に進んでいます。4つのプロジェクト拠点で聴覚障害児の登録数は、目標を上回りました。同プロジェクトは今、子供一人当たりの費用を軽減し聴覚障害児が小学校入学の準備をできるよう、聴覚障害児用のセンターや特殊学級での支援に軸足を移しています。

2015年度は次の活動が終了しました。

- 家族支援のために、聴覚障害家庭のメンター、手話通訳、口頭でのコミュニケーションを教える教師で構成されるチームを結成し、研修を実施。チームは8つのセンターと家庭で、聴覚障害児とその家族を支援
- 手話通訳と聴覚障害メンターが研修プログラムを終了。2015年6月に試験を受け、教育省から手話通訳とトレーニングの認定書を受領の予定
- 教育省は聴覚障害児用のセンターと特殊学級に対し教育支援のアシスタント採用を認める新たな規則を設け、聴覚障害のあるメンターの正式採用、センターでの手話研修を促進

表 3.17 に、2015年度現在の主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。



### 表 3.17

### プロジェクトの成果：聴覚障害児教育・家族支援

指標	実績	目標
家族との生活もスムーズで普通学級に就学する準備ができていると判断された聴覚障害児の数	225	150
家庭と制度による共同モデルの下での診断、家庭支援、就学前支援を求めている、未就学の聴覚障害児と家族の増加数	255	400
若い聴覚障害児のための家庭と制度による新共同モデルは、支持・採用され、普通教育でも再現されているか	YES	YES

出典：DFPTF

注：約 255 人の聴覚障害児が自宅と聴覚障害児用のセンターや特殊学級で手話を学習。

ベトナムでは、5歳児未満児の内、

約1万5,500人が

難聴か聴覚障害を抱えている

と推定されているが、その大半が

早期教育にアクセスを持たない。

JSDFプロジェクトでは、手話を教える

聴覚障害者のメンターを

一人ひとりの子供に割当てているが、

このアプローチでは子供たちの学習と発育に

家庭も関与する。



JSDF IDEO プロジェクトの受益者が世界障害者デーに参加し、手話や聴覚障害コミュニティに対する一般の人々の認識向上を促進。

### 囲み 3.3

## 聴覚障害児教育・家族支援プロジェクト： 包摂的教育のための、家庭中心で学習者にやさしいアプローチ

ホーチミンにある障害者のための包摂的教育支援開発センター (CSDIEPD) では、単に聴覚障害児に手話を教えているだけではありません。周囲の世界を理解し、自分の事を理解してもらうために自らを表現する方法も教わります。このセンターは、他の5つのセンターと共に、2014年に開始された聴覚障害児の早期発育を改善する革新的な方法を試行しています。聴覚障害のあるメンター、手話通訳、聴者教師で構成された「家庭支援チーム」が、自宅において聴覚障害児とその家族を支援します。

4歳のLinh Nguyenは「先生が家にきて手話を教えてくれます。今日は果物と色について勉強しました。先生は弟のTu、おじいちゃん、お父さん、他の家族にも教えてくれます」と言います。LinhもTuも生まれつき耳が聞こえません。

世界銀行のパートナーである国際的な人道組織「コンサーン」が導入したこのモデルには、以下の3つの特徴があります。

- 手話をコミュニケーション手段の柱として使う事で、聴覚障害児の、家族や外の世界とのつながりを実現。
- 聴覚障害のあるメンターを模範、代弁者、手話教師として起用(聴覚障害を持って成長する現実を「身を持って」理解している)
- 子供の学習と発育に家族の関与を促進。

難聴に苦しむ4歳女児Ho Vo Tuong Viの母親Dinh Vo Kim Lyは次のように言います。「プログラムに加わって2カ月、娘は私とかなりコミュニケーションが取れるようになりました。多くの言葉を覚え、外出すると様々な果物の名前を言いますし、数も数える事ができます。」

「もう、みんなと

同じ言葉を

話す事ができる」

—LINH NGUYEN、4歳、  
ホーチミン市

## モンゴル：農村部の最脆弱層の子供たちへの初等教育の改善 (246 万ドル)

**開発目標：**教育面で立ち遅れている国内4つの農村地方に暮らす最脆弱層の子供たち(5～10歳)の学業成績を高めます。同プロジェクトでは、地方レベルで教育サービスと設備を改善し、親とコミュニティ・メンバーを動員する革新的な取組みを促します。いずれも、遊牧コミュニティのニーズに適しており、中退や未就学児童の減少に役立ちます。

**実績：**2015年度、同プロジェクトは、以下の通り、着実な進歩を見せました。

- 1～3年生の補習教育パイロット・プログラムの成功を受けて、同プログラムの実施が決まり、30の対象村落に導入。小学校中退児童の多くは、障害を抱えていたり、閉じこもりがち、又は幼いために義務教育以外の教育を受けられないが、同プログラムでは、中退児童を支援するコミュニティの関係者に対し、資金と支援を提供するという画期的な取組みが大きな付加価値を創出。
- 5～6歳児の遊牧民を対象とする自宅での就学準備プログラムと、親から離れて暮らす遊牧民児童向けの課外プログラムを実施。いずれも、当初のプロジェクト実施地区以外の子供たちも徐々に恩恵を享受。

- 2つの全国規模ワークショップで、支援の拡大に向けて参加者がプログラムの経験と知識を共有。
- 少額グラントを受けた地方コミュニティが、親、コミュニティ・メンバー、地方政府の関与を積極的に奨励しながら、独自のプロジェクトを効果的に実施。

表 3.18 に、2015 年度の主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.18**  
プロジェクトの成果：モンゴル：農村部の最脆弱層の子供たちへの初等教育の改善

指標	実績	目標
課外活動プログラムに参加した子供たちが心理的・精神的に安定した割合。教師、親、同級生、子供自身の回答	15	25
プロジェクトの直接の受益者数	5,700	7,500
女性受益者の数	2,610	3,800

出典：DFPTF

## 図み 3.4

### 遊牧コミュニティの教育ニーズ達成

6歳のUriintsolmonは、遊牧民の両親とウルジツ村で暮らしています。一家は生計の糧である羊、山羊、馬、牛の放牧に適した土地を求めて、年に3、4回移動します。遊牧民のこの生活スタイルのために、Uriintsolmonは学校に行く事ができませんでした。未就学児を持つ他の親と同様、彼女の両親も、小学校入学時に同級生に後れを取るのではないかと心配していました。

2013年11月、両親は、JSDFプロジェクトの自宅就学準備プログラムにUriintsolmonを登録しました。同プログラムでは、子供が学校に行って、図書館から本とおもちゃのモバイルキット一式を持ち帰ります。親はキットの使い方の研修を受けており、自宅で教師となって子供の学習を助けます。子供は1つのキットを終了すると、また図書館に行って新しいキットを受け取り、合計で10のキットを学習する事になっています。

「この大きな本は私のよ。本からたくさんの事が学べるの」と、キットから本を取り出しながらUriintsolmonは言いました。

キットの中には子供の学習を手助けするために親用の本もあります。「私もたくさんの事を学びました」と母親は語っています。

「Uriintsolmonの妹も4年後に入学します。今回、素晴らしい経験ができたおかげで、妹にも教える自信がつかしました。」という父親は、この学習と指導経験は有意義だと付け加えました。「この方法で子供と一緒に勉強すれば、コミュニケーションの仕方を学ぶ事ができ、家族の絆の深まります。」

**遊牧コミュニティでは、自宅での入学準備が一般的になっています。**

恩恵を受けたのは、Uriintsolmonの家族だけではありませんでした。事実、彼女のクラスメートの90%が、同じように自宅での入学準備プログラムに登録していました。「遊牧コミュニティで正式な早期幼児教育を受ける子供は比較的少数です」とUriintsolmonの担任は言います。「このプログラムなら、幼稚園で学ぶはずだった事を自宅で学ぶ事ができます。これは子供にも親にも教師にとっても、実に建設的かつ効果的だと思います。」

ウルジツ村のコミュニティ教育評議会の責任者は、「このプロジェクトの下、地方コミュニティに教育改革をもたらす原動力として、コミュニティ教育評議会が30の村に設置されました」と述べています。

**プロジェクトの実施にあたり、JSDFはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと連携**

4つの県の30の村を対象とする自宅での入学準備プログラムは、大規模なJSDFプロジェクトの一環であり、同プロジェクトでは、国内で特に不利な立場にある農村コミュニティにおいて、遊牧民家庭の6～10歳児の教育改善が図られています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、同プロジェクトの下、地方レベルの教育サービスと設備を改善し、両親とコミュニティ・メンバーを動員しながら、コミュニティ主導でこの国の文化に合った革新的な各種の取組みを促し試行しています。

他の革新的なパイロット・プロジェクトとして、遊牧民の子供の寄宿舎での児童能力開発センターがあります。

学齢に達した遊牧民の子供は、村の中心にある学校に通いますが、学校が自宅から遠く離れている場合もあり、大半の子供は寄宿舎か村の中心部に住む親戚と暮らします。

## 農業生産性の向上

JSDFは、農業部門の多彩な活動に資金を提供しています。各種のプロジェクトを通じて、以下の項目を目指しています。

- 小規模畜産農家のための、家畜飼料と保健サービスへのアクセス拡大
- 対象となる自作農と遊牧民の生産能力の回復
- 東部乾燥地帯の貧しい農民のために、適切な農耕法の導入を支援し、干ばつや食糧不足、農産物・エネルギー価格の変動へのより柔軟な対応を実現
- 森林地帯に住む先住民族コミュニティの生計改善
- 農業リスクの管理強化と、環境に配慮した生産システムの活用による、干ばつリスクの高い地域に住む小作農と、男女の先住民族の生産性水準の向上
- コミュニティ主導の市場連動型企業の立ち上げによる、地方経済開発の支援

このセクションでは、JSDF 農業プロジェクトの例について、詳細と開発成果を紹介します。

## 数字で見る開発成果



5万2,185戸の

農家がアグロフォレストリーと  
混合農業システムを導入

8万2,469人の自作農が恩恵を享受



灌漑用水を農作業に  
活用した事でコストが

12%減少

8万504人の

自作農に野菜栽培時の  
殺虫剤の安全な取扱いについて助言

3,750人が

穀物かすを用いた  
飼料生産の研修を受講

女性受益者は

5万85人

1万8,896

ヘクタールに  
認証種苗を  
植付け



## ブルキナファソ：家畜用飼料の緊急アクセス・プロジェクト (285 万ドル)



**開発目標：**2012年に大きな家畜業減産リスクに直面した牧草地帯と農牧地帯の小規模畜産農家のために、家畜用飼料と家畜の健康維持サービスのアクセス拡大を図ります。グラントのおよそ半額は、濃縮飼料、家畜用サプリメント、医薬品等へのアクセスを改善する活動に充てられます。グラント資金の29%は、革新的な穀物カス粉砕機による家畜用飼料利用の大幅拡大を図る取組みを支援します。残りのグラントは、危機の範囲と実施中の危機緩和措置について正確でタイムリーな情報を提供する事を支援しています。またプロジェクトの効果的な調整、管理、モニタリング、評価、知識の共有も支援しています。

**実績：**開発目標達成に向けた実施の進捗状況は、「満足」の評価を受けています。表 3.19 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.19**  
プロジェクトの成果：ブルキナファソ：家畜用飼料の緊急アクセス

指標	実績	目標
直接の受益者数	25,520	28,000
女性受益者の数	18	30
家畜用飼料の量(トン/年)	3,000	3,000
調達・分配した家畜用サプリメントの量(メートルトン)	50	50
調達・分配したワクチンなど医薬品等の数	200,000	200,000
穀物かすを用いた飼料生産の研修を受けた受益世帯数	3,750	5,000

出典：DFPTF

## グアテマラ：乾燥地帯での食糧不足と気候変動への対応のためのマヤ先住民族と小作農の強靱性強化 (251 万ドル)

**開発目標：**食糧安全保障の確保に向け、生産コストが低く環境に配慮した生産システムにより、グアテマラの乾燥地帯の小作農と男女の先住民族の農業リスク管理を改善し、農業生産性の向上を図ります。

**実績：**多種多様な生産者、辺境コミュニティ、過去 2 年間の気候変動の影響により、タイムリーで適切な技術的支援が阻まれるなど、プロジェクトの実施は困難を極めました。一方で、コミュニティとの協力により、受益者との確かな社会的連携構築は達成しています。サブプロジェクトは気候変動への総合的な適応力という意味で、農家に望ましい影響をもたらしています。貯水池と点滴灌漑が効果を上げ、農業生産性が目に見えて向上しました。表 3.20 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

 **表 3.20**  
プロジェクトの成果：乾燥地帯での食糧不足と気候変動への対応のためのマヤ先住民族と小作農の強靱性強化

指標	実績	目標
雨水を灌漑に利用している農家の数	50	52
女性受益者の数	18	30
アグロフォレストリーと混合農業を実施している農家の数 (1,560 戸中)	90	79
強靱化計画を作成した農民組織の数	25	25

出典：DFPTF

## エルサルバドル：農業とエネルギーのリスク管理：干ばつと食糧不足のための総合戦略 (AGRO-ENERGIA) (183 万ドル)

**開発目標：**東部の乾燥地帯に住む貧しい農民が、干ばつ、食糧不足、農業とエネルギーの高価で不安定なコストに対応できるよう支援します。

**実績：**同プロジェクトは、目標を達成、又はそれを上回る成果を上げ、54 件のサブプロジェクトが進行中です。同プロジェクトは、コミュニティ主導の 50 の組織と手を組み、目標 2,000 名を上回る 2,612 名に恩恵をもたらしています。受益者のおよそ 48%は女性で、170 名は先住民族です。

### 囲み 3.5

#### 中央アメリカの記録的干ばつ：4 カ国で 40 日間雨が降らず、200 万人が飢餓に直面

記録的干ばつによって、ニカラグア、エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラの 50 万世帯以上が食糧不足に直面しています。この緊急事態を受けて、気候変動が中央アメリカの人々の暮らしに与える影響を緩和するために、様々な取組みが実施されています。

ホンジュラスでは、乾燥回廊地帯同盟のプロポーザルの下に開発パートナーが集結し、現地農民を対象に、作物を多様化し農業以外の生計活動に移行するための研修を実施しています。

グアテマラは、アグロフォレストリーと雨水を用いた灌漑システムを通じて、乾燥回廊地帯の 1,000 世帯以上を対象に、農業生産性向上を支援するプロジェクトを開始しました。この取組みは、環境にやさしい基本穀物の低コスト生産も支援します。

エルサルバドルでは、干ばつだけでなく、食糧価格と農業用の道具、種苗、肥料、ならびにエネルギー（燃料と電力）価格の変動によっても、食糧不足が発生しています。その影響を軽減するため、東部で 2,000 人以上の自作農を対象に農法の刷新を支援するプロジェクトが実施されています。

これらのプロジェクトは、JSDF と他の開発パートナーとの共同支援によるものです。

## ホンジュラス：先住民族とアフリカ系小規模農家の持続可能なカカオ豆生産 (225 万ドル)

ホンジュラスの先住民族とアフリカ系住民の小規模カカオ農家は、非効率な農法と生産慣行を続け、生産増や新規市場参入による売上拡大に必要な起業家としての技術や経営知識を持ち合わせていません。同プロジェクトは、環境上適正な新農法を導入し、持続的な成長と開発を目指す起業家としての考え方を育みます。さらに、生産と質の向上に伴い、農民は、いかにして農作物を市場に出し、価格を交渉するかについても学ぶ必要があります。

**開発目標：**アグロフォレストリーなど環境に配慮した生産システムを通じた生産コスト軽減により、小規模カカオ生産者の生産性をヘクタール当たり 6 キンタルまで拡大するよう支援します。また、戦略的パートナーシップの構築と、商業化推進にも力を注ぎます。

**実績：**同プロジェクトの下、ホンジュラス農業研究財団 (FHIA) と国立農業大学 (UNA) の間で戦略的提携関係が結ばれ、取組みの重複を避けながら、他の組織と調整を図る事が可能になりました。遺伝物質に関する FHIA の専門知識がプロジェクト受益者に恩恵をもたらす一方、UNA の農学校の経験と教材が、目覚ましいパフォーマンス達成とプロジェクトの実施向上に役立ちました。同プロジェクトは、先住民族ペチ族連盟とも契約を締結し、先住民族の参加と包摂性を図っています。

有機カカオの生産拡大の結果、プロジェクト受益者は、変動の少ない市場への参入が可能になりました。地元産の原材料と近代的な農業科学技術の活用によって、コスト削減、生産性向上、厳選した市場での販売が実現しています。これらの要因が組み合わさった結果、農民は所得を拡大する事ができました。表 3.21 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト終了時の目標と比較して示しています。

オランチョ県の農民

Leonidas Zavala

Domínguezは、

カカオを乾燥させ

品質を高めるための

知識が深まったと言います。

ペチコミュニティ出身の

Maura Eligia Duarteは、

カカオを原料とする

チョコレートなどの商品の製法を

学ぶ事ができたとしています。

**表 3.21**  
プロジェクトの成果：ホンジュラス：先住民族とアフリカ系小規模農家の持続可能なカカオ豆生産

指標	実績	目標
アグロフォレストリーを導入している農家の数	1,181	1,000
認証サービスを試行している農家の数	3	3
ヘクタール当たり最低 6 キンタルを生産している農家の数	6	6

出典：DFPTF

注：農家の規模は平均 1.5 ～ 2 ヘクタール。予想された結果や指標を上回っただけでなく、生産性向上を通じて 1,700 ヘクタールがプロジェクトの恩恵を受けた事は注目に値する。プロジェクト実施前に有機栽培の認証を受けていた農家は皆無。

## エジプト：農家参加型の灌漑施設近代化 (275 万ドル)

**開発目標：**エジプトのナイル・デルタで推定 2,800 ヘクタール (7,000 フェダン) と推定される灌漑面積について、小規模な農業を営む約 5,000 人を対象に、農家参加型による灌漑・耕作習慣を近代化するアプローチを試行します。

**実績：**プロジェクトは実施中にも改善を続け、2つの地域に 22 の農民用フィールド・スクールが設置されました。農業改良普及員が農民フィールド・スクールの方法について研修を受けました。新たな知識を身に付けたこれらのワーカーは、農民に近代的な灌漑技術と農耕法について助言と指導を行い、農民はこれらの技術を用いて生産性を向上させます。表 3.22 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。



**表 3.22**

### プロジェクトの成果：エジプト：農家参加型の灌漑施設近代化

指標	実績	目標
灌漑用水の活用による農家のコスト減少 (ドル)	12	10
対象地域でマルワ (内水路) 改善の恩恵を受けた受益者の数	4,099	5,000

出典：DFPTF

## ガンビアの緊急農業生産支援 (GEASP) (285 万ドル)

**開発目標：**2011 年と 2012 年の干ばつの影響を受けた 19 の農村地域において、対象となる自作農と遊牧民の生産能力を復活させます。なかでも、ガンビア政府と開発パートナーの取組みを補完し、最も深刻な影響を受けた農家が以前の生産量を確保できるよう、以下を通じて支援しています。

- 改良型の種苗と肥料へのアクセス拡大
- 野菜栽培のための水源を提供
- 家畜の飼料と健康維持サービスへのアクセスを拡大

**実績：**同プロジェクトの進捗状況は、「満足」の評価を受けています。表 3.23 に示す通り、現時点で、すべてのパフォーマンス指標で目標を上回っています。



### 表 3.23

### プロジェクトの成果：ガンビア：緊急農業生産支援

指標	実績	目標
推奨された優れた農業慣行など、改良技術を導入した受益者の数	50,238	40,000
乾期の野菜栽培で生産拡大があったとする女性農民の数	50,914	40,000
プロジェクト終了時に家畜の規模を維持していた受益者の割合	40	20
認証種苗が植えられた面積（ヘクタール）	18,896	16,000
効果的な野菜栽培と殺虫剤の安全な取扱いについて研修を受けた女性の数	476	400

出典：DFPTF

#### GEASP による支援前



干上がった深井戸



骨の折れる水汲み作業



原始的な野菜用フェンス

#### GEASP による支援後



JSDF はボアホールを提供して 1 年中豊富で清潔な水にアクセスできるようにしました。その結果、野菜生産量の拡大に役立っただけでなく、農村部の貧困層に清潔な水が提供されました。新しいフェンスも、動物の野菜畑侵入を防ぎました。

## ニカラグア：価格リスクに対する小規模農家の脆弱性軽減（100 万ドル）

**開発目標：**国際的な食糧市場価格の変動に対して、小規模農家の脆弱性を軽減します。農産物貿易のための内外での取引費用を削減し、価格リスク管理ツールや戦略へのアクセスを拡大します。

**実績：**プロジェクトの実施状況は、「満足」の評価を受けています。表 3.24 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。



**表 3.24**

### プロジェクトの成果：ニカラグア：価格リスクに対する小規模農家の脆弱性軽減

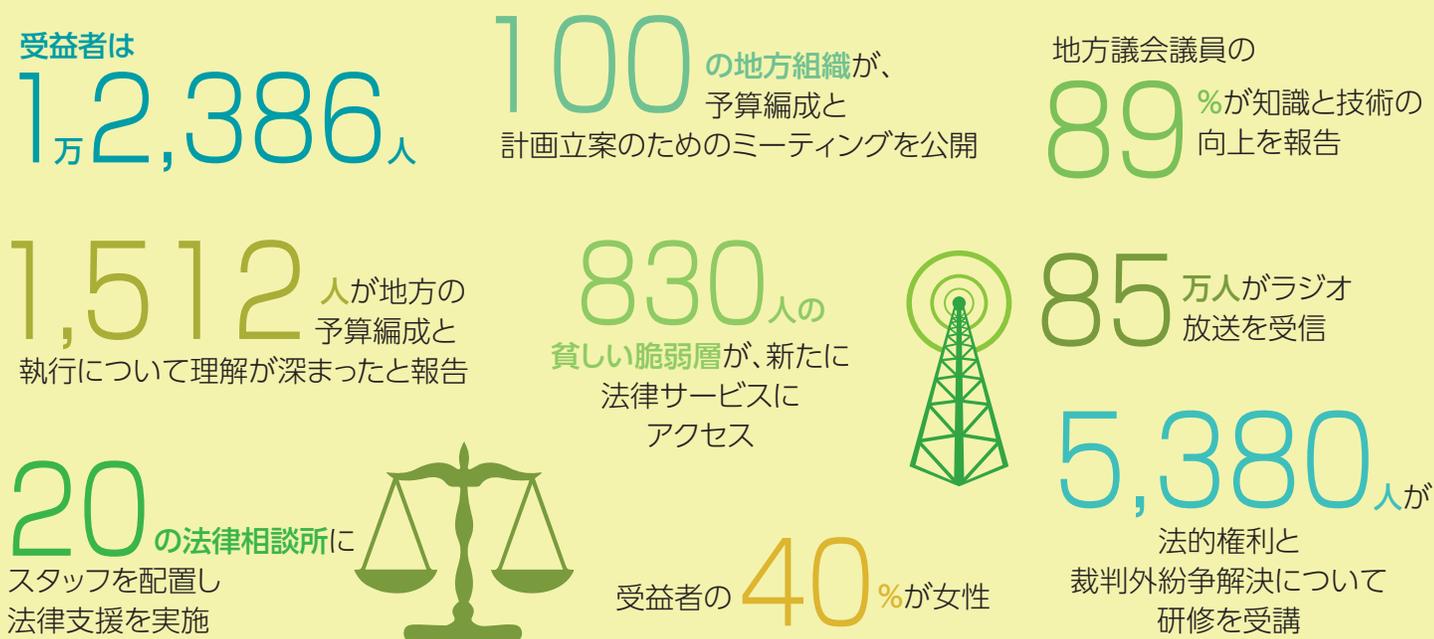
指標	実績	目標
現地の商品取引所で取引されていない農産物の取引コスト減少の割合と税引後利益	29	10
現地の商品取引所で新たに取引されるようになった農産物の数（現金又は金融契約）	2	2
現地の商品取引所で取引される食糧の数量が増加した割合	1.45	2
小規模農家向けの新たな商品取引・価格リスク管理戦略の数	2	2
改良後の農業価格リスク管理戦略について研修を受けた農民の数	2,561	3,000

出典：DFPTF

## 司法サービスと現地のガバナンス

社会から取り残された貧しいコミュニティは、多くの場合、司法サービスへの十分なアクセスを持たず、公平な司法サービスを受けられずにいます。地方政府の計画立案や予算編成、行政サービス提供のあり方についての人々の発言権も限られています。複数の JSDF プロジェクトが、無料の司法サービスを強化し、法的支援アクセスを改善する事で、不利な立場にある人々が公平な司法を受けられるよう支援してきました。JSDF プロジェクトはまた、地方の開発問題について、コミュニティによる参加型の意思決定プロセス改善や、地方政府の説明責任向上にも役立っています。

## 数字で見る開発成果



### ペルー：貧困層に対する総合的法律戦略（112 万ドル）

**開発目標：**法律需要統計のギャップ分析を基に、ペルー都市部の貧困層と複数の都市の最脆弱層に対して無料の法律サービスの提供を強化します。

**実績：**意図した目標の達成に向けた実践と進捗の状況は、「満足」の評価を受けています。活動の主眼は、貧困層の司法サービス・ニーズに応えていない辺境地域に、無料の法律サービスセンター「無料司法サービス・ステーション (FJSS)」を設立する事に置かれました。ワヌコ、イキトス、ワンカベリカ、カハマルカの弁護士が、ボランティアで手掛ける認証プロセス実施の一環として、研修を受けました (Diplomado Virtual Semipresencial)。911 弁護士コー

ルセンターも開設され、市民は電話で緊急の無料法律相談が受けられるようになりました。また、ペルーの法務人権省と協議してコールセンター業務の継続を可能にした他、約 1,000 人の市民が、公開情報・啓蒙プログラムの恩恵を受けました。

表 3.25 に、2015 年度現在での成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しており、完了時の目標を上回った事は明確です。

**表 3.25**  
プロジェクトの成果：ペルー：貧困層に対する総合法律戦略

指標	実績	目標
研修を受けた法律サービス専門家の数	140	80
法律支援を実施している相談所の数	5	4

出典：DFPTF

## ナイジェリア：貧困層の司法アクセス (253 万ドル)

**開発目標：**カドゥナ州の貧しい脆弱層に対する法律支援サービスへのアクセス強化により、社会・経済面の権利行使と、民事上の紛争解決を可能にします。

**実績：**開発目標達成に向けた全体的な進捗状況は、「満足」の評価を受けています。中でも、プロジェクトで試験的に活用された地方に点在する法律相談所を、プロジェクト完了後も維持するために支援した事は大きな成果と言えます。実施パートナーであるナイジェリアの法律支援協議会は、12 の地方政府と共に、相談所維持の意向を表明しています。この他に、以下に挙げる成果も上がっています。

- 質の高いサービスを提供するため、カドゥナ州全域で法律支援に携わった弁護士、法律事務員、ユース・コープのボランティアなどの現場スタッフを対象に、裁判外紛争解決と具体的な法律のテーマについて研修を実施。プロジェクト終了後に法律サービスがスムーズに継続されるよう、地方政府の弁護士と法律サービスの提供機関も研修に参加
- 広報活動のための各種キャンペーンにより、社会・経済面の権利（場合によっては文化面の権利も）についての認識が向上。
- これらのキャンペーンは、約 85 万人を対象にラジオ番組、コマーシャル、巡回説明会を通じて実施
- 法律相談所を通じた分散型サービスを 20 の拠点で試験的に実施
- カドゥナ州全域での法律相談所を通じた分散型サービスは、2011 年後半に開始され、時間と共に相談案件が増え、2012 年は 36 件、2013 年は 322 件、2014 年は 830 件に増加。

表 3.26 に示す通り、同プロジェクトは目標を達成又は上回る成果を上げています。

**表 3.26****プロジェクトの成果：ナイジェリア：貧困層の司法アクセス**

指標	実績	目標
カドゥナ州で法律支援を実施している法律相談所の数	15	12
十分な人員が配置され、法律支援サービス全般を提供している相談所の数	3	3
法律サービスを活用している貧しい脆弱層の数	830	242
法律上の権利と裁判外紛争解決について研修を受けた人の数	5,249	5,000

出典：DFPTF

**キルギス共和国：効果的な自治体ガバナンスに向けた需要サイドのキャパシティ・ビルディング (161 万ドル)**

**開発目標：**地方自治体の計画作り、予算編成、サービス、投資において参加型の意思決定と説明責任を強化する事で、キルギス共和国の自治体ガバナンスを強化します。

**実績：**同プロジェクトは、ほとんどの目標が未達であったにもかかわらず、実施のパフォーマンスと目標達成について、「満足」の評価を受け、2015 年度に完了しました。キャパシティ・ビルディング活動は、競争入札により、78 の貧しい農村部の地方政府で実施されました。活動の主眼は、知識の共有と参加型自治における市民の権利、役割、責任についての認識向上に置かれました。同プロジェクトで研修を受けた議員の大半が次の地方自治体選挙で当選した事は注目に値します。表 3.27 に、2015 年度現在での主な成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.27****プロジェクトの成果：キルギス共和国：効果的な自治体ガバナンスに向けた需要サイドのキャパシティ・ビルディング**

指標	実績	目標
プロジェクトの直接の受益者数	6,170	9,900
直接の女性受益者数	1,481	3,300
役割と責任行使のための知識と技術の向上を報告した地方議会議員の割合	89	95
予算の編成・立案会議を公開で実施している地方政府の長の割合	97	100
地方自治体の予算編成と実施についての知識が深まったと答えたプロジェクト受益者の割合	88	90

出典：DFPTF

## 南アジア：優れたガバナンスと腐敗撲滅に向けた貧困層の参加 (190 万ドル)

この地域プロジェクトは、多くの点でユニークです。1つの国ではなく南アジアの2カ国(バングラデシュとネパール)が対象で、主な実施組織である「透明性のためのパートナーシップ基金」が、同2カ国で活動中の2つのNGO(バングラデシュのマヌシェルジョンノ財団とネパールのヘルベチア)とパートナーシップを結びました。次に両組織が、現地のコミュニティ・レベルでプロジェクト活動を実施する現地のパートナーを特定しました。さらに、同プロジェクトは、地方コミュニティのガバナンス問題への理解、ならびに近隣で実施中の世界銀行グループ・プロジェクトの一部について、ガバナンス向上を求める機能を強化しました。同プログラムには新しく「結果、透明性、説明責任を求める市民アクション(CARTA)」という名称がつけられました。

**開発目標：**バングラデシュとネパールで世界銀行グループが支援する貧困層のためのプロジェクトについて、開発インパクト、持続可能性、クライアントのオーナーシップを高め、市民社会事業への参加を促進し、経験や、よりよいガバナンスを求める能力の拡大を図ります。

**実績：**バングラデシュとネパールのプロジェクトとサブプロジェクトは、以下の通り、大きな成果を上げています。

### バングラデシュ：地方行政支援プロジェクト(LGSP) II

- 地方政府(UP)委員会とコミュニティ・メンバーの100%がLGSP-II制度に関する知識を習得(サブプロジェクト開始時点の割合は、ある地方政府ユニットで80%、別のユニットで58%)
- UPの100%が掲示板を通じて適切に情報を発信情報を発信(サブプロジェクト開始時点の割合は、ある地方政府のユニットで全体の70%、別のユニットで78%)
- 現地インフラ・プロジェクトに関して掲示板が利用された割合は、ある地方政府ユニットで80%、別のユニットで78%
- 税の徴収状況が、ある地方政府のユニットで77%から83%に、別のユニットで35%から43%に、それぞれ改善

### バングラデシュ：村落水供給・衛生プロジェクト(BRWSS) II

- 水使用者委員会(WUC)が再編され、内30%が女性メンバー。
- 利用者グループ、WUC、CSO、公衆衛生工学局(DPHE)間のコミュニケーションが向上
- モニタリングの強化によってサービスの質が向上
- 損壊した浄水場をWUCの取組みによって修復
- 計画されたBRWSSP-IIに対するコミュニティの認知度が向上。回答者の88%は地域で実施予定の水道管システムの計画を認識
- CARTAの全サブプロジェクトにおいて利用者グループ、WUC、CSO、DPHE間のコミュニケーションが向上

## バングラデシュ：農村部の電化と再生エネルギーの開発

- パートナー組織との協力によるサブプロジェクトの下、戸別家庭用太陽光発電システム (SHS) 設備を初めて使用する 350 人に対し、メンテナンスに関する研修を実施
- SHS に問題が発生した割合は、一般家庭で 28%から 5%に、法人ユーザーで 16%から 1%に減少
- SHS の設置前又は設置時に技術者から説明を受けたユーザーの割合は、一般家庭で 46%から 68%に、法人ユーザーで 57%から 70%に上昇
- SHS 設備に関する問題のパートナー組織による解決までの所要期間が 31 ~ 60 日から 1 ~ 15 日に短縮

## ネパール：農村部のアクセス改善と地方分権化プロジェクト

- CBO メンバーの 97%が環境・社会運営フレームワーク (ESMF) を認識 (サブプロジェクト開始前は 28%)
- CBO メンバーの 92%が、市民事業の質とコミュニティのモニタリング方法を認識 (当初は 26%)
- サブプロジェクトの終了時まで全 CBO が契約文書を受け取り、話し合いを実施 (CARTA 以前は 27%)
- サブプロジェクト終了時まで、CBO の 84%が市民事業のモニタリングを任じられ、道路プロジェクトの 96%を掲示板で発表 (CARTA 以前は、CBO に市民事業のモニタリングは課せられておらず、掲示板に載る道路プロジェクトは全体のわずか 60%)
- 記録・処理された苦情の件数が大幅に増加。支援前は、苦情はすべて口頭で伝えられ、対応される事はほぼ皆無。サブプロジェクト終了時、187 件の苦情が記録され、内 89%を処理。適切に記録された苦情の件数が増えた結果、地方開発職員と地区の技術事務所の責任者が、地区レベルで追加のモニタリング視察を実施

## ネパール：緊急平和支援プロジェクト (EPSF)

CARTA 以前は、サービスプロバイダーにモニタリングや苦情を処理する仕組みはありませんでした。遺族 (内 74% は夫を亡くした女性) など、紛争の影響を受けた人 (CAP) の大半が、EPSF プログラムについて何ら情報を持ち合わせていませんでした。CARTA による支援の後、行政機関の透明性と説明責任が高まり、適格基準、申請プロセス、支給の仕組み、行政機関の種類とサービス、現地の平和委員会の結成プロセス、苦情処理の仕組みを含め、EPSF について受益者の理解が深まっています。サブプロジェクトのキャパシティ・ビルディング活動がそうした改善に貢献しました。サブプロジェクトは目標を達成し、次のようなポジティブな成果を上げています。

- 完了時のアンケートの結果、適格性のある CAP の 80%が復興サービスの支援を受けた事が判明 (開始時は 21%)
- 完了時のアンケートによると、受益者の 96%が EPSF について認識 (開始時は 56%)
- 16 の村落開発委員会レベルで、苦情処理の仕組みを確立
- 終了時のアンケートによると、行政機関の反応の迅速さとサービスの質が開始時の 0%から 60%に上昇
- サブプロジェクト終了時には、行政機関の 89%が自らの役割を認識しており、適格性を満たす CAP に対して適切な復興支援を提供

## 気候変動・適応・衛生

JSDFの気候変動・適応プロジェクトは、農耕法、自然保護、農業生物多様性、公衆衛生などの問題に関する様々な課題に取り組みました。

### 数字で見る開発成果

女性を含めた受益者

1,522人が  
水の保全や  
天然資源の保護に関する研修を受講



公衆衛生を推進するため

55人の現地活動家に  
研修を実施

住民の知識と農業生物  
多様性資源を用いた

50のパイロット・プロジェクト  
を設計・開発

1万8,000世帯が  
より整備された衛生設備にアクセス

## 気候変動と適応

### イエメン：農業生物多様性と適応 (278 万ドル)

**開発目標：**国の主要な官公庁と地方レベルで、気候変動に対応するための機能と認識を高め、自然保護を進め、農業生物多様性を活用して、地方コミュニティが気候変動により上手く適用できるようにします。JSDF のグラントは地球環境ファシリティ (GEF) のグラント 400 万ドルに共同で資金を提供しています。

**実績：**同プロジェクトは 2015 年度に終了し、プロジェクトの開発目標達成について「満足」の評価を受けました。JSDF の成果指標の大半が達成されています。

同プロジェクトにより、8 つの対象地区のコミュニティ・レベルで、気候変動及び天然資源の保全 (農業生物多様性と水を含む) に対応する仕組みについて認識が向上しました。GEF の 10 のパイロット村落と協力して取組みを進めた一方、パイロット村落以外は JSDF が担当しました。JSDF の下で、水道の様々な利用者グループとコミュニティの天然資源保全計画を作成した他、インフラと工学面の支援に基づく対応戦略の実施 (GEF と JSDF)、所得創出の対応支援 (GEF と JSDF) も実施しました。さらに、プロジェクト終了後に再現を促すため、手法、アプローチ、教訓を文書にまとめました。同プロジェクトでは、インフラや工学面の支援をより多く実施できた可能性があります。成果を見ると、資金不足が制約となったわけではなく、むしろ問題だったのは、地方レベルの実施機能でした。

表 3.28 の JSDF コンポーネントのパフォーマンスが示す通り、同プロジェクトは当初の成果目標を上回っています。

**表 3.28**  
プロジェクトの成果：イエメン：農業生物多様性と適応

指標	実績	目標
農業生物多様性の保全と適応を中心に、天然資源の管理計画を策定したパイロット・コミュニティの数	10	8
水の保全、天然資源の保護、栄養について研修を受けた受益者数	1,522	1,500
住民の知識と農業生物多様性を用いて設計・開発されたパイロット・プロジェクトの件数	50	20

出典：DFPTF

## 衛生

### モザンビーク：首都マプトの周辺部の衛生状態改善 (178 万ドル)

**開発目標：**マプトの周辺に位置する 11 の無計画に広がった地区に住む約 14 万人を対象に衛生状態と衛生習慣を改善した上で、再現するために効果的なアプローチを試行します。

**実績：**表 3.29 に、2015 年度現在でのプロジェクトの成果を、プロジェクト完了時の目標と比較して示しています。

**表 3.29**  
プロジェクトの成果：モザンビーク：首都マプトの周辺部の衛生状態改善

指標	実績	目標
より整備された衛生設備にアクセスできる人の数	18,000	28,000
適切な排水サービスを提供している地元業者	7	12
公衆衛生推進の研修を受けた現地活動家の数	55	55

出典：DFPTF



マプト周辺部の衛生プロジェクトの一環であるコミュニティ・マイクロ・プロジェクトで資金を受けた井戸 (モザンビーク)



## 第4章 知識管理とその普及

2015年度、JSDF 対話シリーズは引き続き『裸足の技術者と草の根 CEO』の発行と紹介に力を注ぎました。

### JSDF 対話シリーズ

日本で開催されている JSDF 対話シリーズは、JSDF プロジェクト実施を通じて得られた成果や教訓を、日本の実務者、研究者、市民社会組織 (CSO)、NGO、その他の関係者に広く伝える先駆的な試みです。JSDF とその取組みについて理解を深める事を目的とする同シリーズにとって、日本の CSO と NGO は対話の重要な相手です。同シリーズはまた、実務者間のネットワークを広げ、JSDF の成果や教訓について日本の実務者や市民が学ぶ事のできる機会を提供しています。

対話シリーズは、東京開発ラーニングセンター及び世界銀行グループ東京事務所の広報担当チームの協力により実施されており、2015年度には、通算8回目となるセミナーが2014年12月15日に開催されました。JSDF がバングラデシュで実施した「バングラデシュ人出稼ぎ労働者保護」プロジェクトの成果が主要な関係者を集めて発表されました。同プロジェクトは、コミュニティ単位の組織 (CBO) を設立・強化する事で、将来の国外への出稼ぎに備えて、約86万4,000人の貧しい未熟練労働者とその家族に安全な出稼ぎについて正確でタイムリーな情報とサービスを提供し、仲介者への依存抑制と脆弱性の軽減を図ります。同プロジェクトは、NGO や政府とのパートナーシップを通じ国外での雇用の見込みと出稼ぎ先の国の規則・規定についての重要な情報を提供する事で、プロセスの透明性を高めています。同プロジェクトは、地方や全国的なネットワークを用いて安全な出稼ぎに関するサービスを提供します。こうした手法は、関係政府機関により全国に展開される可能性があります。

JSDF は、起業を希望する貧しい女性を新たなアプローチで支援するプロジェクトを実施し、その経験をまとめた報告書の制作と発行に資金を提供しました。2015年度、JSDF は、インドの自

報道にもよく  
報じられる通り、  
バングラデシュでは  
出稼ぎの安全性が  
問題化しつつあり、  
政府の行動を  
求める世論が  
高まっています。

JSDFによる「バングラデシュ人出稼ぎ労働者保護」プロジェクトの下、出稼ぎ希望者とその家族に対し、出稼ぎのメリットとリスク、出稼ぎ労働者の安全確保に必要なプロセスについて、コミュニティの中庭で開かれたミーティング



宮女性労働者協会 (SEWA) が実施した JSDF プロジェクトをまとめた『裸足の技術者と草の根 CEO』を出版しました。JSDF は当初、SEWA と組んで、キャパシティ・ビルディングのための SEWA マネージャー Ni 学校 (SEWA マネージャー学校) を計画しました。その目標は、インドの貧しい女性が自立し、持続可能な収入を確保できるよう、草の根の女性マネージャー、トレーナー、アントレプレナーを育成する事にありました。この書籍には、共通の問題に臨む両者のダイナミックなパートナーシップ、社会の周縁に追いやられた最貧困層のための画期的な技術革新を支えた情熱についての実話が記録されています。さらに、革新的な開発基金と結びつき、きちんと組織されたこの女性運動により、読み書きすらままならない農村部の女性 50 万人が、いかにして情報技術を駆使する草の根 CEO に育ち、生活水準を高め所得を増やしていったかを紹介しています。

SEWAはインドの労働運動から  
枝分かれした組織で、数十年にわたって  
メンバーである自営女性労働者の  
完全雇用と自立を確保すべく活動してきました。

この報告書の発表記念イベントが、2015年7月9日に世界銀行で開催され、菅正弘 世界銀行日本代表理事からご挨拶を賜りました。管理事は、世界銀行グループと日本政府のパートナーシップに言及し、極度の貧困の撲滅と繁栄の共有促進という世界銀行グループの2大目標の達成に向け、途上国支援に力を注ぐという日本の決意を改めて強調しました。



**WORLD BANK GROUP**  
External and Corporate Relations



## BAREFOOT TECHNICIANS AND GRASSROOTS CEOs

*How India's Self-Employed Women's Association is unleashing technology to spark innovation and enterprise among the rural poor*

Learn how SEWA unleashed technology to spark motivation and enterprise in more than 500,000 rural women over a 4 year span through its network of holistic community-based enterprises, the Community Learning and Business Resource Centers (CLBRCs). Hear from the practitioners how they use cutting edge ICT solutions in their day to day activities.

**CHAIR**  
**Shobha Shetty**  
Practice Manager  
Agriculture Global Practice, World Bank

**SPEAKERS**  
**Masahiro Kan**  
Executive Director, Japan, World Bank

**Subhash Chandra Garg**  
Executive Director for Bangladesh, Bhutan, India and Sri Lanka, World Bank

**Annette Dixon**  
Vice President, South Asia Region, World Bank

**Jaehyang So**  
Director, Trust Funds and Partnerships  
Development Finance, World Bank

**Priya Basu**  
Manager, Trust Funds and Partnerships  
Development Finance, World Bank

**PRESENTERS**  
**Reema Nanavaty**  
Director, Economic and Rural Development, SEWA  
Voices of SEWA grassroots leaders

**Onno Ruhl (via video recording)**  
Country Director, India  
South Asia Region, World Bank

**Caren Grown (via audio link)**  
Senior Director  
Gender, World Bank

**GRASSROOTS CEOs**  
**Pravina Alois Macwan**  
**Suryaba Vikramsinh Jadeja**

3:00 PM - 4:30 PM ||| Thursday, July 9, 2015

J1-050 Auditorium, World Bank J Bldg; 701 18th Street, NW, Washington, DC, 20433

Coffee and Cookies will be served

RSVP: [worldbank.events@worldbank.org](mailto:worldbank.events@worldbank.org)

This event is sponsored by External and Corporate Relations, the World Bank's Development Finance, Agriculture Global Practice, and the South Asia Region





## 第5章 プログラムの運営

**世** 界銀行は、JSDF プログラムの信託機関として、同信託基金の下で全てのグラントがプログラムの目的に沿っているか、かかった費用が JSDF プロジェクトの目的にかなっているか、プログラムが費用対効果の高い方法で運営されているか、を確認しています。

世界銀行の開発金融局長、信託基金・パートナーシップ総局の下、JSDF プログラム事務局がプログラムを運営します。運営内容は、以下に挙げる通りですが、これに限定されません。

- 日本財務相による承認前に TTL が予め提出するコンセプト・ノートとグラント・プロポーザルの質の確保
- 現在実行中の JSDF 活動の再編の承認
- プロジェクトの現地視察を行い、パフォーマンス評価及び関係者やプロジェクトの受益者との対話を実施
- 日本政府からの資金の受け取りを管理
- プロジェクトで発生した費用の適格性を裏付ける報告書を定期的に提出すると共に、監査報告書を提出

さらに、世界銀行は年に 1 回、監査済みの財務諸表と共に、その年の新規承認グラントと開発実績を紹介する年次報告書を作成し、日本政府に提出します。

### プログラムのモニタリング

JSDF プログラム管理チームは機会あるごとに、JSDF プロジェクトの現場を訪れて現地視察を実施しています。視察の際には、受益者や実施組織の代表と会い、プロジェクトの進捗状況を見極め、課題を把握し、JSDF の活動が受益者の生活にもたらした影響について受益者に耳を傾けます。視察は、プロジェクトの実施を阻む障害を取り除くきっかけともなります。JSDF チームはまた、現地の日本大使館及び国際協力機構 (JICA) を訪問し、プロジェクトの実施状況について日本政府関係者に説明します。

2015年度、JSDF チームは、ベトナムとベナンでプロジェクトの視察を行いました。視察団は、駐ベナン日本大使と、当該国の世界銀行グループの国担当局長に対して視察の結果を説明し、JSDF のアウトリーチ戦略やドナーの認知度についても話し合いました。2015年度の現地視察の内容は以下の通りです。

## ベトナムの現地視察：聴覚障害児教育・家族支援アウトリーチ・プロジェクト

ベトナム：聴覚障害児教育・家族支援アウトリーチ・プロジェクトは、聴覚障害児の社会参加を図るために、審査、家族支援、未就学児童用サービスを組み合わせ、家庭と組織をベースとする革新的な取組みを試行します。視察団は、受益者及びプロジェクト・マネジメント・ユニットの代表者と面談し、JSDF プロジェクトが子供達とその家族に状況を一転させるような大きなインパクトをもたらした事に大変勇気づけられました。同 JSDF グラントは又、聴覚障害児と家族間のコミュニケーションの改善に役立っています。視察団は以下の点について説明を受けました。



2014年12月にタイグエン省で開かれた家族交流デー。聴覚障害者のコミュニティ、家族、教育者の間でパートナーシップを構築し、体験談や JSDF グラントの好事例を共有する機会をもたらしました。

- 未就学の聴覚障害児 500 人とその家族を対象に、手話の研修を実施。聴覚障害児が手話を学習し、言語療法を通じて話せるようになる一方、親は、子供のコミュニケーション能力、学習能力、コミュニティと関わる能力について、知識と自信を高める機会を得る。このように同プロジェクトは、就学前の聴覚障害児を持つ家庭を対象に、手頃なコストで文化的にも受け入れられる支援活動の基礎を構築。
- 目標の 150 人を 70% 上回る聴覚障害児童 255 人が、家族にスムーズに溶け込み、普通学校の 1 年生に入学する準備を完了。
- JSDF グラントの結果、ベトナム教育省は、聴覚障害児用のセンターや特殊学校で指導を支援するアシスタントの採用を認める新規制を作りました。これにより、聴覚障害のあるメンターが正式にこれらのセンターで手話を教える事ができるようになります。

これらの活動は各地で試行される可能性が高く、今後の世界銀行グループの業務でも拡大の見込みである事が視察団に伝えられました。

## ベナンの現地視察：コミュニティの栄養不良対策プロジェクト

280 万ドルに上るこの JSDF グラントは、支援の過程において母親や祖母を手本にし、コミュニティ・レベルの革新的な栄養サービスを通じて、貧しく、栄養不良の割合が高い農村部で最貧困コミュニティ向けに幼児の栄養状態改善

を図りました。いずれも、世界銀行グループが支援するコミュニティ主導型の国家開発支援プロジェクトが行き届いていないコミュニティです。JSDF プロジェクトは、大半の指標で目標を達成又は上回る成果を上げています。JSDF パイロット・プロジェクトの内容は、世界銀行グループによるマルチセクター食糧・健康・栄養プロジェクトにおいて拡大されています。

視察団は、ウインヒ地区とアチエメ地区の受益者を訪ね、村落開発協会 (ADV) のメンバーで模範となった母親や祖母に会いました。協会は栄養状態のよい子供や孫を持つ母親や祖母を手本を選んで研修を行い、0～24カ月の乳幼児を持つ母親のほか、妊婦や授乳中の女性を対象に、月に1度の栄養教育セッションを実施します。手本となった母親に対する現金支給はありませんが、貢献度に応じたインセンティブが与えられます。

- 同プログラムの成果として、研修参加後の母乳だけで子供を育てる母親の割合が、目標の54%を上回る91%に到達
- 同プロジェクトにより、極度の栄養不良だった子供に体重増加が見られ、JSDF グラントが支援した極度の栄養不良児の内、体重増加が見られた割合は59% (当初の目標は50%)
- JSDF グラントの一環としての基本的な栄養サービスを受けた妊婦と、5歳未満児を持つ授乳中の女性は3万2,428人 (当初の目標1万3,608人の138%増)
- 24カ月未満の乳幼児約1万8,590人が食生活改善の恩恵を享受 (目標の8,064人の130%に相当)
- 中程度から極度の栄養不良の治療を受けた5歳未満児は9,803人 (目標の5,544人の77%増)
- JSDF プロジェクトは、妊娠と食習慣に関する支援と知識発信 (対面式とラジオ放送による) を通じて、栄養不良の割合が高いコミュニティを支援し、対象受益者の子供の栄養不良を軽減するため、試験的枠組みを提供

視察団は、村落が主導するリスクへの共同対応の仕組みについても意見を聞きました。この仕組みは、極度の栄養不良に陥った子供が栄養回復センターで治療を受けられるよう、母親にバウチャーを渡して資金を提供するものです。リスクを共同で管理するこの仕組みは、模範となる母親や祖母が動員された地区の25% (40村落) において試行されました。また、ADV が手本となる母親と共同で実施しました。160の村落がこの仕組みに参加しましたが、

これは目標を300%上回る数字です。しかし、バウチャーの配布は容易ではありませんでした。2015年6月までに配布されたバウチャーは、目標の120枚に対してわずか22枚でした。実際には120枚以上のバウチャーが発行されましたが、これは極度の栄養不良児が減った事による需要の減少であり、望ましい成果と言えるでしょう。

コミュニティ支援の一環として、模範となる母親をラジオ放送で紹介



## 日本の認知度

JSDF の戦略的枠組みは、JSDF プログラムの受益者が日本の貢献について理解を深めると共に、他の開発パートナーもプログラムに対する日本の資金援助について認知度を高める事を目指しています。

JSDF 事務局は「コミュニケーション・ツールキット」を作成し、プロジェクトの実施期間中や知識共有イベント開催時にプロジェクト・チームに配布しています。プロジェクト・チームは、プロジェクト活動のコミュニケーション戦略の一環として JSDF のロゴや、日本の支援を示すものを掲示しています。

現地視察の際、プログラム運営チームは日本大使館と現地 JICA 事務所を訪問し、二国間プログラムについて協議しました。また、JSDF に関連して、世界銀行グループ職員のより一層の協力などについて意見交換を行いました。JSDF との連携については、日本政府側から強い協力の意思表示がありました。日本政府関係者はまた、プロジェクトの実施から得られた教訓の促進や、グッド・プラクティスの知識共有について、パートナーとの協力を図ります。

世界銀行グループのタスクチームは、以下の活動を通じて日本の貢献と援助受入国における JSDF の認知度拡大を図る事が求められています。

- JSDF グラントが支援した出版物、研修プログラム、セミナー、ワークショップでは、日本政府の資金援助による活動であることを明記
- JSDF プログラムが支援した出版物、ならびにセミナーや研修プログラムで使用されるバナーなどの資料には、日本国旗を掲載
- 世界銀行グループが発表する JSDF グラント関連のプレスリリースでは、日本政府からの資金援助に言及
- 援助受入国は、JSDF の活動が地元のメディアで取り上げられるよう努力する事が望まれる。また、関連するすべての広報資料や公式文書、報告書、出版物は、日本が開発パートナーとして当該活動に資金を拠出した事を明示

世界銀行のタスクチームは、現地でのグラント署名式典開催を奨励しています。その際、援助受入国は式典に日本大使館職員、援助受入国駐在の JICA 職員、内外の報道関係者を招待する事が求められています。以下は、その例です。

- **ウガンダ**で 2014 年 11 月 19 日に開催された「**自作農の栄養強化に向けた革新的な総合アプローチのプロジェクト**」開始に当たってのワークショップに、駐ウガンダ日本大使が、主賓として出席
- 日本大使館職員が、**バングラデシュの CARTA プログラムの全国ワークショップ**に来賓として出席

「 Bangladesh に第三者モニタリングという  
概念が導入されたのは今回が初めてです」  
と、 Bangladesh の CARTA ワークショップにおいて、  
日本大使館の川上貴之一等書記官は述べました。  
「新しい事を始めるときは、色々な問題が  
起こりがちですが、それについて話し合い、  
民主的に解決する事を目指しています。」



## 第6章 未来へ向けて

J SDF は、世界銀行グループの旗艦プログラムとして、加盟国の低中所得国において、何百万人もの暮らしに良い影響を及ぼしてきました。同プログラムはこれまでに、多くの国の開発に深く貢献してきました。JSDF は常に、プロジェクトの改善に取り組むと共に、急速に変化する世界の貧困状況に戦略的に対応すべく革新的な方法を模索し続けています。JSDF の今後の焦点は、極度の貧困の撲滅(2030年までに世界で極度の貧困層の割合を3%まで削減)と、繁栄の共有の促進(世界銀行グループ加盟途上国の人口の下位40%の所得を持続的に引き上げる)という世界銀行グループの2つの目標に沿ったものです。

2015年度以降も、JSDF は不利な立場に置かれた最貧困層を支援するプロジェクトを通じて、生活水準向上のための優先的なサブプロジェクトを計画・実施・維持する新たなコミュニティ組織の設立を図っていきます。JSDF プロジェクトは、貧困層、脆弱層、不利な立場にあるグループを対象に、生活水準向上の成果がすぐに表れるような直接的恩恵をもたらす事により、そうした人々のニーズに対応していきます。また、貧困層のコミュニティや団体が自らの生活に影響する意思決定に参加するよう促し、地方政府と現地のNGOやCSOのサービス提供機能を高めるなど、引き続きキャパシティ・ビルディングを図っていきます。

さらにJSDF は、アフリカ特別枠として第5回東京アフリカ会議(TICAD-V)と**栄養不良対策の拡大(SUN)**とのパートナーシップを通じて、アフリカの平和と安定を目指す日本の長期的取組みの一環として、栄養不良を軽減しつつ、母子死亡率低下に向けて技術協力を継続します。さらに、**元戦闘員の武装解除、動員解除、社会復帰の支援**では、JSDF はアフリカで紛争に巻き込まれた若者に経済力をつけるための研修プログラムを提供し、失業率低下に向けた技術協力を続けます。

## ジブチ戦略ノートの実施

世界銀行グループ理事会は、2014年2月にジブチ国別支援フレームワーク(CPF)を承認しました。CPFの一環として脆弱性への対応を支援するため、JSDFはコミュニティ・レベルの脆弱性の問題に対し、強化スキームを通じた生計確保、衛生、エネルギー、サービス提供プロジェクトで構成される900万ドルの総合パッケージを提供しました。これらのプロポーザルは、ジブチに対するCPFの目標達成の鍵を握っています。CPFは支援の2つの柱の1つとして脆弱性に取り組みます。今後、JSDFは上流のカントリー・マネジメント・ユニットと連携して、ジブチ・モデルを他の国で再現すべく可能性を探っていきます。





**JSDF**  
日本社会開発基金

**日本社会開発基金**

JSDF プログラム・マネージャー

電話：202-473-4149

Eメール：[HNkole@worldbank.org](mailto:HNkole@worldbank.org)

世界銀行グループ

1818 H Street, N.W.

Washington, D.C. 20433



日本政府



世界銀行グループ  
開発金融総局